

## 《人づくり分野》

生涯学習部

2022年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	取 り 組 み 等	◆2022年度、東京都内において考古資料等のデジタル公開を行っているのは、多摩26市で7市、23区で10区です。また、横浜市、川崎市も同様に公開しています。
所管事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関すること</li> <li>◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関すること</li> <li>◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関すること</li> <li>◆文化財の保護、調査及び収集等に関すること</li> <li>◆考古資料室に関すること</li> </ul>		

2.2021年度末の総括と2022年度状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡は3地点すべてが見学可能となりましたが、八幡平遺跡と牟場遺跡の一部は整備が完了していません。国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業であるため、整備のスケジュールや内容などを見直し、整備を完了させる必要があります。また、遺跡の認知度を高めるため公開・活用を促進する必要があります。◆2022年度から町田デジタルミュージアムの全面公開が開始しますが、多くの方にご利用してもらうために効果的な情報発信が必要です。また、町田デジタルミュージアムを活用し、町田市の歴史に触れられる機会を増やす必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<p>◆町田デジタルミュージアムの普及促進を図ります。◆町田デジタルミュージアムの効果的な活用方法を検討・実施します。◆中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校に保管している資料を整理した上で、民俗資料を三輪の森ビジターセンターへ、考古資料をゆくのき学園に移送します。</p> <p>◎ ◆町田デジタルミュージアムのポスター・チラシの作成、紹介動画の配信を行いました。◆自由民権資料館、考古資料室及び市内文化財の説明板に町田デジタルミュージアムの二次元コードを添付しました。また、出張歴史授業において町田デジタルミュージアムを活用しました。◆高ヶ坂石器時代遺跡の見学会を実施しました。◆民俗・考古資料を整理し、三輪の森ビジターセンター、ゆくのき学園等への移送が完了しました。</p>	<p>◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。</p> <p>◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用してもらうため、掲載内容の改善・更新を行います。</p>

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	-	目標	-	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	6	5	3			
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施	牟場遺跡整備	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牟場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	全面公開		(2024年度)	
考古資料室の見学者数	人	目標	300	330	360	650	-	考古資料室年間見学者数
		実績	318	323	621			

②成果指標およびその他成果の説明

◆町田市生涯学習審議会からの意見等を踏まえ、2023年2月3日の教育委員会において、「(仮称)町田市教育プラン24-28」の骨子を決定しました。

◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡、稲荷山遺跡、牟場遺跡)の3地点を徒歩でめぐり見学会を実施しました。参加者は38名で、アンケートに回答していただいた方の満足度は96%でした。

◆考古資料室の展示のリニューアルを行ったことにより見学者数は621人となり、2021年度と比較して298人(92%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	73,849	97,328	85,103	△ 12,225	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	8,278	663	805	142	保険料	0	0	0	0
物件費	36,886	24,884	49,407	24,523	国庫支出金	4,607	1,700	7,537	5,837
うち委託料	20,436	24,148	47,909	23,761	都支支出金	3,898	949	870	△ 79
維持補修費	856	538	486	△ 52	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1,870	484	472	△ 12
補助費等	1,245	1,180	1,174	△ 6	その他	32	3,102	122	△ 2,980
減価償却費	7,036	7,329	7,329	0	行政収入 小計(a)	10,407	6,235	9,001	2,766
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 127,539	△ 140,934	△ 142,387	△ 1,453
賞与・退職手当引当金繰入額	18,074	15,910	7,889	△ 8,021	金融収支差額 (d)	△ 203	△ 181	△ 165	16
行政費用 小計 (b)	137,946	147,169	151,388	4,219	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 127,742	△ 141,115	△ 142,552	△ 1,437
特別費用 (g)	0	2,525	0	△ 2,525	特別収入 (f)	△ 6,533	0	6,207	6,207
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 6,533	△ 2,525	6,207	8,732	当期収支差額 (e)+(h)	△ 134,275	△ 143,640	△ 136,345	7,295

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 82,962千円 文化財保護審議会委員報酬 1,152千円 生涯学習審議会委員報酬 368千円 社会教育委員報酬 621千円	文化財等運搬整理業務委託料 22,463千円 旧忠生第六小学校等廃棄物収集運搬処分業務委託料 6,661千円 埋蔵文化財調査委託料 3,720千円 町田市考古資料室常設展示制作業務委託 3,685千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により人件費が12,225千円減少(うち、時間外は142千円増加)。	中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校等に保管している文化財等を整理し新たな保管場所へ運搬したことにより文化財等運搬整理業務委託料が22,463千円増加。
勘定科目	国庫支出金	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 5,837千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,700千円	一般財団法人地域創造(地域伝統芸能等保存事業)助成金 107千円 ふるさと納税 15千円
主な増減理由	新たな歴史の学び推進事業に対し新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を受けたことにより5,837千円増加。	町田デジタルミュージアム構築業務が終了したことにより図書館振興財団助成金が2,992千円減少。助成対象となる市指定無形民俗文化財保持団体の活動費が増えたことにより地域創造助成金が27千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		14,217	13,602	△ 615	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	5,073	5,713	640	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	834,712	827,845	△ 6,867		賞与引当金	9,144	7,889	△ 1,255
		土地	708,422	708,422	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	333,632	333,632	0	固定負債		134,018	116,120	△ 17,898
		建物減価償却累計額	△ 207,342	△ 214,209	△ 6,867		地方債	42,009	36,296	△ 5,713
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	92,009	79,824	△ 12,185
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	89	89	負債の部合計		148,235	129,722	△ 18,513	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		689,201	700,474	11,273
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計		689,201	700,474	11,273		
その他の固定資産	2,724	2,262	△ 462	負債及び純資産の部合計		837,436	830,196	△ 7,240		
資産の部合計	837,436	830,196	△ 7,240							

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 141,778千円 考古資料室 131,142千円 など	商標権(まっくう) 89千円	須恵器横瓶 1,800千円 土製耳飾りレプリカ 462千円
主な増減理由	減価償却により6,867千円減少。	商標権を取得したことにより89千円増加。	土製耳飾りレプリカの減価償却により462千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

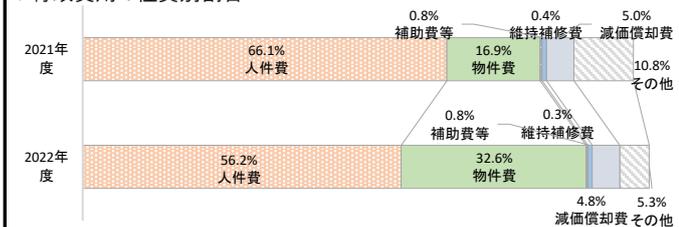
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	9,001	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	151,457	社会資本整備等投資活動支出	89	財務活動支出	5,073
行政サービス活動収支差額(a)	△ 142,456	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 89	財務活動収支差額(c)	△ 5,073
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 147,618
				一般財源充当調整額	147,618

5.財務構造分析

6.個別分析

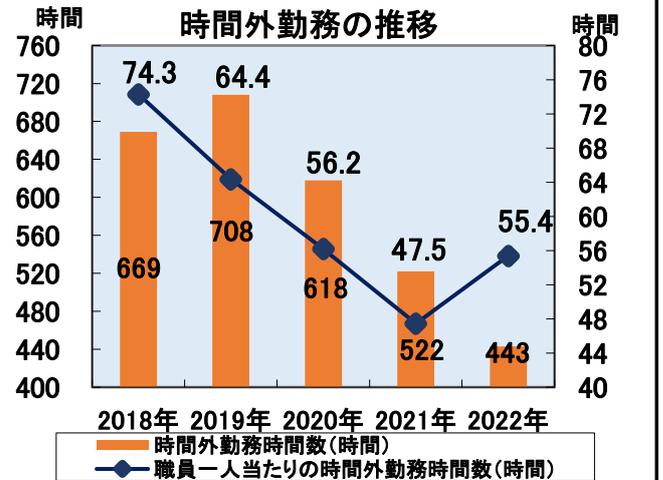
▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
生涯学習審議会事務	1.1			0.1		1.2	1.1
生涯学習総務課管理事務	4.3			0.6		4.9	5.5
文化財保護事務	4.9			0.6		5.5	4.8
考古資料室管理事務	0.7					0.7	0.5
						0.0	0.0
2022年度 歳出目 合計	11.0	0.0	0.0	1.3	0.0	12.3	11.9
2021年度 歳出目 合計	11.1	0.0	0.0	0.7	0.1	11.9	



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆中学校給食センターの建設に伴い、旧生第六小学校等に保管していた文化財を新たな保管場所(三輪の森ビジターセンター、ゆくのき学園等)へ移送しました。保管資料の整理や収納方法の工夫によって保管スペースを移転前より52%圧縮できました。このことにより、行政費用の物件費は2021年度と比較して24,523千円増加し、文化財保護事務に関わる人員も0.7人増加しました。◆考古資料室の常設展示を大幅にリニューアルしたことにより考古資料室の見学者数は621人となり、2021年度と比較して298人(92%)増加しました。

②過年度データとの比較・分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより10年前と比較して11,254千円増加しましたが、うち時間外勤務手当については、業務分担の整理・見直しを進めたことにより7,473千円減少しました。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「(仮称)町田市教育プラン24-28」の策定に向けて、生涯学習審議会の意見を踏まえ、生涯学習に関する施策や重点事業を検討する必要があります。◆リニューアルした考古資料室の常設展示をより多くの方に見てもらうためのPRが必要です。◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業については、より効果的に学校側のニーズに応えられるよう内容の検討が必要です。◆施設の老朽化への対応だけでなく、収蔵資料の更なる活用を見据え、考古資料室の修繕・改修等を講じる必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆生涯学習審議会の意見を踏まえ「(仮称)町田市教育プラン24-28」の策定に向けた検討を実施します。◆考古資料室展示リニューアル後の情報発信を積極的に行います。◆出張歴史授業は、学校のニーズやアンケート等により内容の検討、更新を行います。	◆「(仮称)町田市教育プラン24-28」に基づき、生涯学習に関する事業を推進します。◆考古資料室見学者の利便性と資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕を検討、実施します。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型
------	---------	-------	---------	------	--------

1.事業概要

事業目的 町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。

基本情報	根拠法令等	文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱				
		2020年度	2021年度	2022年度	国指定及び登録文化財件数	21件
	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施	東京都指定文化財件数	16件
	町田デジタルミュージアム進捗状況	考古資料構築・公開	構築完了	全面公開	町田市指定及び登録文化財件数	57件
				埋蔵文化財包蔵地数	913ヶ所	

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡は3地点すべてが見学可能となりましたが、八幡平遺跡と牟場遺跡の一部は整備が完了していません。国や都からの補助金の交付額や市の財政状況の影響を大きく受ける事業であるため、整備のスケジュールや内容などを見直し、整備を完了させる必要があります。また、遺跡の認知度を高めるため公開・活用を促進する必要があります。  
 ◆2022年度から町田デジタルミュージアムの全面公開が開始しますが、多くの方にご利用してもらうために効果的な情報発信が必要です。また、町田デジタルミュージアムを活用し、町田市の歴史に触れられる機会を増やす必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムの普及促進を図ります。◆町田デジタルミュージアムの効果的な活用方法を検討・実施します。◆高ヶ坂石器時代遺跡の見学会を実施します。◆中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校に保管している資料を整理した上で、民俗資料を三輪の森ビジターセンターへ、考古資料をゆくのき学園に移送します。	◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業については、スケジュールの再調整など整備計画の見直しを行います。◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして多くの方に利用してもらうため、掲載内容の改善・更新を行います。	
◎	◆町田デジタルミュージアムのポスター・チラシの作成、紹介動画の配信を行いました。◆自由民権資料館や考古資料室の展示リニューアル時や市内文化財の説明板に町田デジタルミュージアムの二次元コードを添付しました。◆高ヶ坂石器時代遺跡の見学会を実施しました。◆民俗資料、考古資料を整理した上で、民俗資料は三輪の森ビジターセンター、考古資料はゆくのき学園等への移送が完了しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施	牟場遺跡整備	整備完了	国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡(牟場・稲荷山・八幡平)整備事業の進捗状況
		実績	八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開	見学会実施		(2024年度)	
町田デジタルミュージアムアクセス数	件	目標	-	-	240,000	380,000		町田デジタルミュージアムのアクセス数
		実績	-	-	372,749			

②成果指標およびその他成果の説明

◆高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡、稲荷山遺跡、牟場遺跡)の3地点を徒歩でめぐるとの見学会を実施しました。参加者は38名で、アンケートに回答していただいた方の満足度は96%でした。◆4月1日に「町田デジタルミュージアム」の公開を開始しました。新聞やネットニュース上で紹介された他、紹介動画2本のYouTubeでの公開、ポスター・チラシの小中学校や公共施設等での配布、自由民権資料館と考古資料室の展示リニューアル時に「町田デジタルミュージアム」にアクセスする二次元コードを多用するなど様々な取組の結果、アクセス数は目標値を大幅に上回りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度				差額 B-A	勘定科目	2022年度			
	2012年度	A	B	B-A			2012年度	A	B	B-A
行政費用	人件費	0	38,337	38,185	△ 152	地方税	0	0	0	0
	物件費	0	22,500	43,193	20,693	国庫支出金	0	1,700	3,779	2,079
	うち委託料	0	22,404	42,381	19,977	都支出金	0	949	870	△ 79
	維持補修費	0	239	486	247	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	469	457	△ 12
	補助費等	0	1,152	1,149	△ 3	その他	0	3,102	122	△ 2,980
	減価償却費	0	4,362	4,362	0	行政収入 小計(a)	0	6,220	5,228	△ 992
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	0	△ 63,939	△ 88,297	△ 24,358
	賞与・退職手当引当金繰入額	0	3,569	6,150	2,581	金融収支差額 (d)	0	△ 181	△ 165	16
	行政費用 小計 (b)	0	70,159	93,525	23,366	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	0	△ 64,120	△ 88,462	△ 24,342
	特別費用 (g)	0	1,052	0	△ 1,052	特別収入 (f)	0	176	0	△ 176
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	△ 876	0	876	当期収支差額 (e)+(h)	0	△ 64,996	△ 88,462	△ 23,466

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	文化財等運搬整理業務委託料 22,463千円 旧忠生第六小学校等廃棄物収集運搬処分業務委託料 6,661千円 埋蔵文化財調査委託料 3,720千円 など	国指定重要文化財旧永井家住宅梁応急修繕 198千円 国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡ロープ柵修繕 185千円 都史跡青木家屋敷説明板支柱修繕 103千円
主な増減理由	中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校等に保管している文化財等を整理し新たな保管場所へ運搬したことにより、文化財等運搬整理業務委託料が22,463千円増加。	文化財の修繕箇所が増加により修繕料が291千円増加。 工事対象となる文化財がなかったことにより工事請負費が44千円減少。

勘定科目	国庫支出金	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 2,079千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,700千円	一般財団法人地域創造(地域伝統芸能等保存事業)助成金 107千円 ふるさと納税 15千円
主な増減理由	新たな歴史の学び推進事業に対し新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を受けたことにより2,079千円増加。	町田デジタルミュージアム構築業務が終了したことにより図書館振興財団助成金が2,992千円減少。助成対象となる市指定無形民俗文化財保持団体の活動費が増えたことにより地域創造助成金が27千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2022				
		2021				
		2020				
		2022				
		2021				
		2020				

④貸借対照表

(単位:千円)

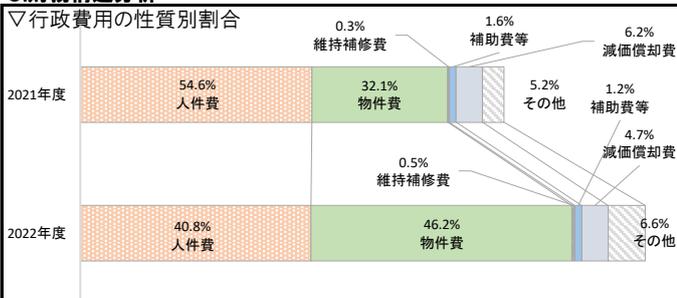
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	8,642	9,240	598	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	5,073	5,713	640
固定資産	有形固定資産	731,013	726,651	△ 4,362		賞与引当金	3,569	3,527	△ 42
	土地	653,734	653,734	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	202,490	202,490	0	固定負債	77,632	71,877	△ 5,755	
	建物減価償却累計額	△ 125,211	△ 129,573	△ 4,362		地方債	42,009	36,296	△ 5,713
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	35,623	35,581	△ 42
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	89	89	負債の部合計	86,274	81,117	△ 5,157	
	インフラ資産	0	0	0	純資産	644,739	645,623	884	
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計	644,739	645,623	884	
資産の部合計	731,013	726,740	△ 4,273	負債及び純資産の部合計	731,013	726,740	△ 4,273		

⑤貸借対照表の特徴的事項

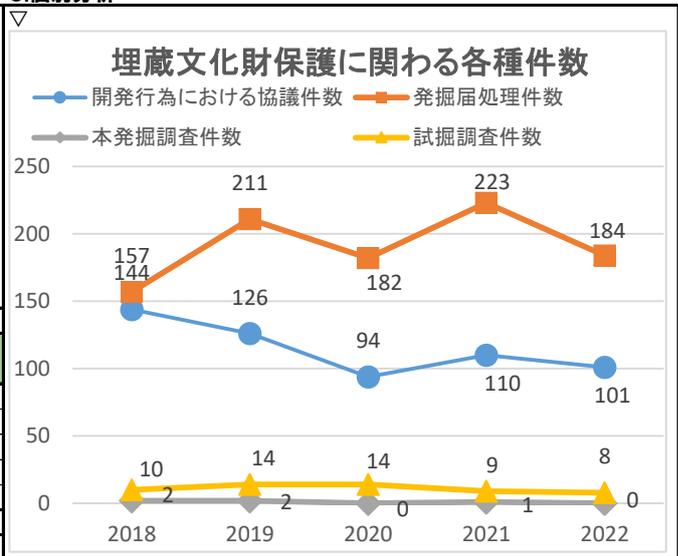
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)
決算額の主な内訳	田端遺跡 220,285千円 高ヶ坂石器時代遺跡(八幡平遺跡) 192,014千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡) 覆屋 27,293千円 など	商標権(まっくろ) 89千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により4,362千円減少。	商標権を取得したことにより89千円増加。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2022		2021	
						合計	合計	合計	合計
文化財保護審議会事務局事務	0.5					0.5	0.3		
文化財保護事務	1.9			0.2		2.1	1.3		
文化財整備保存事業	0.5					0.5	0.9		
埋蔵文化財保護事業	1.4					1.4	1.5		
文化財普及事業	0.7			0.4		1.1	1.5		
2022年度 特定事業 合計	5.0	0.0	0.0	0.6	0.0	5.6	5.5		
2021年度 特定事業 合計	4.3	0.0	0.0	0.4	0.1	4.8			

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆中学校給食センターの建設に伴い、旧忠生第六小学校等に保管していた文化財を新たな保管場所(民俗資料は三輪の森ビジターセンター、考古資料はゆくのき学園等)へ移送しました。保管資料の整理や収納方法の工夫によって保管スペースを移転前より52%圧縮できました。これらの業務を行ったことにより行政費用の物件費は2021年度と比較して20,693千円増加し、文化財保護事務に関わる人員も0.8人増加しました。◆2021年度に町田デジタルミュージアムの構築が終了したため、文化財普及事業に関わる人員が0.4人減少しました。

②過年度データとの比較・分析

(2012年度と2022年度では事業等の区分が異なることから事業毎の比較等は行わず、「課別行政評価シート」において「社会教育費全体」を比較・分析しています。)

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについては、今後も継続的に閲覧、活用してもらうための工夫をする必要があります。
- ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、公開・活用を図るとともに、未整備部分の工事を着実に推進する必要があります。
- ◆指定文化財については、適切な維持管理を図るとともに計画的な修繕を実施していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムの普及促進及び効果的な活用方法を検討します。◆高ヶ坂石器時代遺跡のうち、牢場遺跡の未整備部分を整備し公開・活用します。◆個人等が所有している指定文化財のうち、早急に修繕が必要なものについて修繕等が適切に行うことができるよう支援します。◆文化財の大切さを伝えるため、修繕や整備状況について、ホームページ等で紹介します。	◆町田デジタルミュージアムを魅力あるコンテンツとして継続的に利用してもらうため、掲載内容の改善・更新を検討します。◆指定文化財については、計画的な修繕等を順次実施します。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的 町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。

基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要領					
		2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市考古資料室
	考古資料室見学者数	318	323	621	建設年月日	-
	アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	2(11,255)	2(15,711)	2(23,722)		
				有形固定資産減価償却率	2020年度 60.4% 2021年度 61.7% 2022年度 63.9%	

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆引き続きアウトリーチの展示、イベントを実施する場所の新規開拓を進める必要があります。
- ◆町田デジタルミュージアムと連携するなど考古資料室の展示構成をより魅力的なものにする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆新たなアウトリーチ事業として、小中学校への出張歴史授業を実施します。	◆考古資料室の展示環境を整備し、町田デジタルミュージアムと連動した展示を実施します。	◆見学者の利便性と資料の収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕計画を検討します。	

- ◎ 取組状況
- ◆新たなアウトリーチ事業の取組として、市内小学校2校で出張歴史授業を実施しました。
  - ◆町田市の歴史の特徴の一つである縄文時代の資料を中心に常設展示をリニューアルし(「縄文のまちだ」展)、プロジェクターによる動画投影や二次元コードを通じて町田デジタルミュージアムと連動する構成にしました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	300	330	360	650	-	考古資料室年間見学者数
		実績	318	323	621			
アウトリーチ展示開催件数(見学者数合計)	件(人)	目標	3(4,500)	11,000	16,000	20,000	-	収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の件数及び見学者数
		実績	2(11,255)	2(15,711)	2(23,722)			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆考古資料室の見学者数は展示のリニューアルを行ったことにより見学者数は621人となり、2021年度と比較して298人(92%)増加しました。
- ◆アウトリーチ展示は、町田ツーリストギャラリー、ふれあい桜館(高齢者福祉センター)の2件を実施しました。展示内容の工夫などにより見学者数は23,722人となり、2021年度と比較して8,011人(51%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	0	3,829	5,376	1,547	地方税	0	0	0	0
物件費	0	2,329	6,159	3,830	国庫支出金	0	0	3,759	3,759
うち委託料	0	1,744	5,528	3,784	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	299	0	△ 299	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	0	2,967	2,967	0	行政収入 小計(a)	0	0	3,759	3,759
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	△ 11,295	△ 13,115	△ 1,820
賞与・退職手当引当金繰入額	0	1,871	2,372	501	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	0	11,295	16,874	5,579	通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	△ 11,295	△ 13,115	△ 1,820
特別費用(g)	0	71	0	△ 71	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	△ 71	0	71	当期収支差額(e)+(h)	0	△ 11,366	△ 13,115	△ 1,749

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 5,376千円	町田市考古資料室常設展示制作業務委託 3,685千円 除草及び低木剪定業務委託料 671千円 施設管理業務委託料 664千円 など
主な増減理由	常設展示のリニューアルを行ったことにより1,547千円増加。	常設展示リニューアルに関する業務委託が3,759千円増加。開室日数の増加により施設管理業務委託料が61千円増加。

勘定科目	国庫支出金	
決算額の主な内訳	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 3,759千円	特になし
主な増減理由	新たな歴史の学び推進事業(常設展示リニューアル)に対し新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を受けたことにより3,759千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人あたりのコスト	人	2022	24,343	693	△ 11	行政費用は5,579千円増加しましたが、考古資料室とアウトリーチ展示の利用者数も8,309人増加したため、11円(1.6%)減少し、693円となりました。
		2021	16,034	704	△ 100	
		2020	11,573	804	△ 335	
		2022				
		2021				
		2020				

④貸借対照表

(単位:千円)

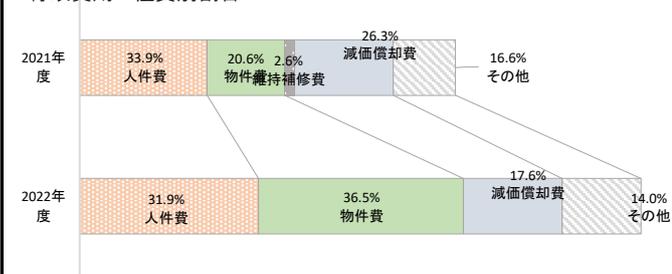
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	374	514	140
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	103,699	101,193	△ 2,506	賞与引当金	374	514	140
	土地	54,688	54,688	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	131,142	131,142	0	固定負債	3,814	5,277	1,463
	建物減価償却累計額	△ 82,131	△ 84,637	△ 2,506	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	3,814	5,277	1,463
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	4,188	5,791	1,603
	インフラ資産	0	0	0	純資産	102,235	97,664	△ 4,571
	有形固定資産	0	0	0				
	土地	0	0	0				
工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	2,724	2,262	△ 462	純資産の部合計	102,235	97,664	△ 4,571	
資産の部合計	106,423	103,455	△ 2,968	負債及び純資産の部合計	106,423	103,455	△ 2,968	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	考古資料室 131,142千円	須恵器横瓶 1,800千円 土製耳飾リレプリカ 462千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により2,506千円減少。	土製耳飾リレプリカの減価償却により462千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

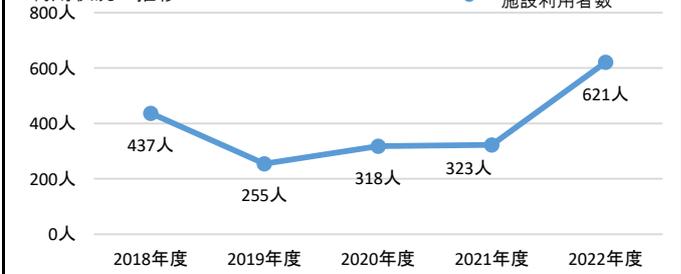


▽事業に関わる人員

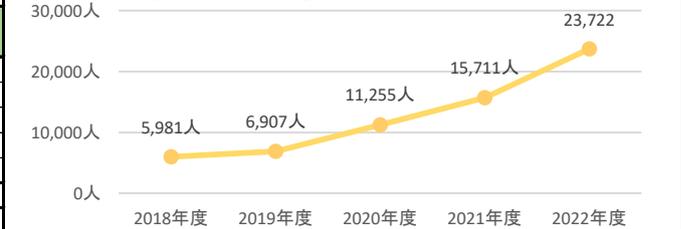
業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2022	2021
						合計	合計
考古資料室管理事務	0.7					0.7	0.5
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2022年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5
2021年度 特定事業 合計	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	

6.個別分析

▽利用状況の推移



▽アウトリーチ展示見学者数の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆考古資料室の常設展示を大幅にリニューアルし、アウトリーチ展示の内容を工夫したことなどから、考古資料室とアウトリーチ展示の見学者数は合わせて24,343人となり、2021年度と比較して8,309人(52%)増加しました。◆常設展示のリニューアルに伴って人件費や物件費が上昇したため、行政費用が2021年度から5,579千円増加しました。行政収入については、国の交付金を受けたため、国庫支出金も3,759千円増加しました。  
◆2022年9月27日から10月30日に函館市縄文文化交流センターで開催された「カックウとまっくう」展において、町田市の中空土偶頭部(まっくう)が展示紹介され、5,132人の方にご覧いただきました。

②過年度データとの比較・分析

(2012年度と2022年度では事業等の区分が異なることから事業毎の比較等は行わず、「課別行政評価シート」において「社会教育費全体」を比較・分析しています。)

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆リニューアルした常設展示をより多くの方に見てもらうためのPRが必要です。
- ◆2022年度から開始した小中学校向け出張歴史授業については、より効果的に学校側のニーズに応えられるよう内容の検討が必要です。
- ◆資料貸出時の破損防止に係る留意点の整理が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆展示リニューアル後の情報発信をホームページ、案内カードの配布などで積極的に行います。</li> <li>◆出張歴史授業については、学校側のニーズを把握し、実施した際のアンケートを利用して、内容の検討、更新を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見学者の利便性と資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、計画的な修繕を検討、実施します。</li> </ul>

2022年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
				事業類型	e:事業型(施設運営)

1.組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集、保管し、調査、研究の成果で展示などをおこない、町田市の郷土資料館として、自由民権運動と町田の歴史について市民の理解を深めます。	取組自治体等の	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。また、自由民権運動、近代史を専門とする学芸員が在籍しているのは、町田市立自由民権資料館だけです。
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査、研究及び、図書の刊行。普及事業の講座、各種イベントの開催に関すること。		

基本情報	根拠法令等				施設の名称	町田市立自由民権資料館		
	開館日数	2020年度	2021年度	2022年度	建設年月日	1986年3月31日		
		250	268	258				
	特別展・企画展開催回数	2	4	3		2020年度	2021年度	2022年度
					有形固定資産減価償却率	40.4%	42.4%	44.4%
	講座実施回数	22	63	32				

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市立自由民権資料館のあり方見直し方針」に示しためざす姿を実現するため、市民に町田市の通史を伝えるための展示を実施することや、史料整理を着実に進めるための体制を整備する必要があります。
- ◆新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、町田デジタルミュージアムと連動させた、非接触型の展示環境を整備する必要があります。
- ◆施設の老朽化に伴い、維持補修費が年々増加しているため、計画的な修繕が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	◆町田市の歴史の面白さを伝えるため、自由民権資料館の展示をリニューアルします。考古・歴史・民俗資料を一体的に活用した通史展示とともに、自由民権運動を中心とした展示を実施します。◆町田デジタルミュージアムと連動した、非接触型の展示環境を整備します。	◆町田市の歴史を後世に伝えるため、新たな『町田市史』編さんに向けて、様々な課題を整理し準備を行い、重要史料群の整理を進めます。◆展示、収蔵環境の保全のため、計画的に修繕を実施します。
○	◆自由民権資料館において、自由民権運動及び新たに町田の通史を紹介する2つの常設展示をリニューアル公開しました。 ◆館内にWi-Fiを導入し、展示資料に二次元コードを添付することにより、町田デジタルミュージアムと連動した展示環境を整備しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,200	年間利用者数(出張講座等の施設外利用者含む)
		実績	4,106	5,809	5,891			
重要史料群の整理率	%	目標	-	-	47.5	55.0	100	歴史資料約15万件中、重要史料群約5万3千件の整理率
		実績	-	40.0	48.2		(2029年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆自由民権資料館において、常設展示「自由民権運動と町田」及び「町田の歴史」を公開しました。また、企画展「野津田薬師堂と武相寅歳薬師」や歴史講座を32回実施した結果、2021年度と比較して利用者数は5,891人となり、82人(1.4%)増加しました。◆新たに町田市域の歴史上重要な資料5万3千件の資料整理を優先し2029年度に完了する目標を設定しました。2022年度の目標値に対する実績は0.7%増の48.2%でした。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目		2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目		2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	32,964	40,852	45,188	4,336	地方税	0	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	0	871	280	△ 591	保険料	0	0	0	0	0
	物件費	38,460	10,232	14,874	4,642	国庫支出金	0	0	4,062	4,062	4,062
	うち委託料	30,024	5,801	9,893	4,092	都支支出金	25,200	0	0	0	0
	維持補修費	974	780	1,619	839	分担金及負担金	0	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0
	補助費等	928	948	706	△ 242	その他	748	476	292	△ 184	△ 184
	減価償却費	7,391	9,970	9,970	0	行政収入 小計(a)	25,948	476	4,354	3,878	3,878
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 55,401	△ 67,585	△ 73,809	△ 6,224	△ 6,224
	賞与・退職手当引当金繰入額	632	5,279	5,806	527	金融収支差額 (d)	△ 1,917	△ 84	△ 84	0	0
	行政費用 小計 (b)	81,349	68,061	78,163	10,102	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 57,318	△ 67,669	△ 73,893	△ 6,224	△ 6,224
	特別費用 (g)	0	992	0	△ 992	特別収入 (f)	11,825	0	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	11,825	△ 992	0	992	当期収支差額 (e)+(h)	△ 45,493	△ 68,661	△ 73,893	△ 5,232	△ 5,232

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員給料等 24,828千円 会計年度任用職員報酬等 20,360千円	自由民権資料館光熱水費 3,224千円 新たな歴史の学び推進に関する自由民権資料館常設展示制作業務委託 2,530千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により人件費が4,336千円増加。	常設展示のリニューアル、Wi-Fi環境整備などにより委託料が4,092千円増加。電気料金高騰の影響により光熱水費が802千円増加。図書刊行の見直しにより印刷製本費が149千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	浄化槽設備修繕 891千円 シャッター修繕 506千円 事務室換気扇修繕 148千円 など	新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金 4,062千円
主な増減理由	緊急を要する修繕を行ったため、施設修繕料が839千円増加。	新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用して常設展示のリニューアル、Wi-Fi環境整備などを行ったため、4,062千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2022	5,891	13,268	1,552	2021年度と比較して行政費用が10,102千円増加したため、施設利用者1人あたりコストは1,552円増加しました。
		2021	5,809	11,716	△ 4,179	
		2020	4,106	15,895	8,207	
		2022				
		2021				
		2020				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,173	8,366	5,193
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	620,039	610,230	△ 9,809	地方債	0	4,902	4,902
	土地	334,577	334,577	0	賞与引当金	3,173	3,464	291
	建物(取得価額)	490,459	490,459	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 204,997	△ 214,806	△ 9,809	固定負債	109,397	104,905	△ 4,492
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	84,000	79,098	△ 4,902
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	25,397	25,807	410
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	負債の部合計	112,570	113,271	701
	建設仮勘定	0	0	0	純資産	508,111	497,441	△ 10,670
	その他の固定資産	642	482	△ 160	純資産の部合計	508,111	497,441	△ 10,670
資産の部合計	620,681	610,712	△ 9,969	負債及び純資産の部合計	620,681	610,712	△ 9,969	

⑤貸借対照表の特徴的事項

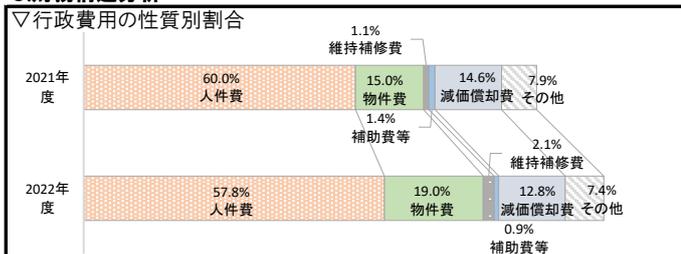
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	自由民権資料館 490,459千円	平型覗きガラスケース 482千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により9,809千円減少。	減価償却により160千円減少。

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

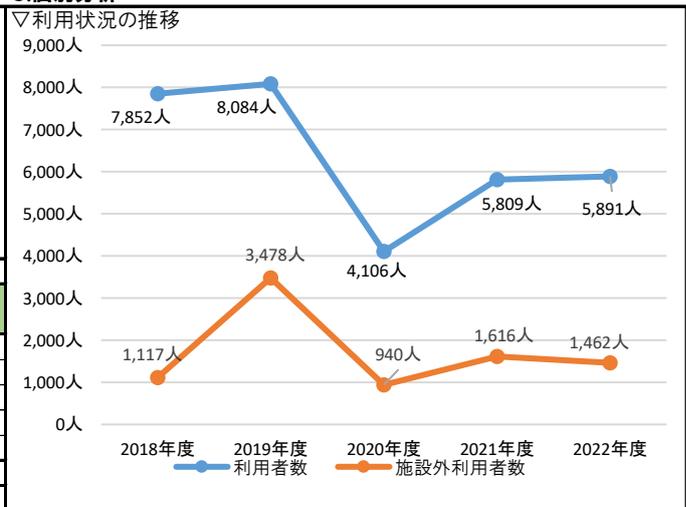
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	4,354	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	67,576	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 63,222	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 63,222
				一般財源充当調整額	63,222

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度(業務)		2022		2021	
				合計	(補助)	合計	合計		
資料館管理事務	1.5		0.2	0.3	2.0	2.5	2.0	2.5	
資料保管事務	0.2		1.6	0.6	2.4	1.6	2.4	1.6	
展示事務	0.7		1.6		2.3	1.2	2.3	1.2	
図書刊行	0.2		0.1		0.3	0.6	0.3	0.6	
普及事業	0.4		0.7		1.1	1.7	1.1	1.7	
2022年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	4.2	0.9	8.1	7.6	7.6	
2021年度 歳出目 合計	3.0	0.0	0.0	3.6	1.0	7.6	7.6	7.6	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆アフターコロナに対応し、市民に新たな歴史を学ぶ機会を推進するため、2つの常設展示のリニューアル及び館内にWi-Fiを導入しました。2021年度と比較して行政費用の物件費が4,642千円増加しました。この事業は、国の交付金を受けているため、行政収入の国庫支出金も4,062千円増加しました。  
◆自由民権資料館や他施設での民俗資料の展示及び講座等の利用を合わせ、展示施設観覧者数合計は11,077人となりました。◆展示のリニューアルに注力したため、2021年度と比較して展示事務が1.1人増加し、普及事業が0.6人減少しました。◆小中学校への出張歴史授業を20件実施しました。

②過年度データとの比較・分析

◆2012年度に東京都から緊急雇用促進事業費臨時特例交付金25,200千円を受けて収蔵資料のデジタル化を行いました。このため、物件費は2012年度と比較して23,586千円減少となりました。今後、物件費については光熱水費の上昇などによる施設管理のための費用が増加する見込みです。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆リニューアルした常設展示をより多くの方に観てもらおうためのPRやイベントを行う必要があります。
- ◆歴史講座では幅広い利用者層を開拓するため、講座の内容、実施方法を検討する必要があります。
- ◆施設の老朽化に伴い、維持補修費が年々増加しているため、計画的な修繕が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆夏休み期間中、養蚕の歴史を振り返る企画展「町田のおカイコさん」を自由民権資料館と三輪の森ビクターセンターで同時開催します。また、町田市の郷土資料館として市民、特に小中学生に愛着を持ってもらえるよう、愛称を募集します。 ◆歴史講座の内容、実施方法を検討し、プログラムを再編します。	◆新たな『町田市史』編さんに向けて重要史料群の整理を継続できる体制を整えます。◆修繕費、光熱水費の上昇が見込まれるため、適切な展示・収蔵環境を維持できる計画を検討します。

2022年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことができるよう支援します。	他自治体の取り組み等	◆町田第一中学校では、2022年8月から地域団体向けに特別教室の貸し出しを開始しました。これに加えて、図書室学習スペースの個人利用を開始し、地域の学生が学習支援員として常駐し、利用者の学習相談に応じています。このように、中学校の図書室を活用して、世代を問わず学習支援を行っている事例は、都内他市町村ではありません。
所管事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること</li> <li>◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること</li> <li>◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること</li> <li>◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること</li> <li>◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に供すること</li> </ul>		

2.2021年度末の総括と2022年度末の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業内容、管理運営体制の見直しを行い、実行計画を策定する必要があります。
- ◆身近な場所での学びのきっかけづくりや、地域課題の解決のため、主催及び共催事業の地域展開(アウトリーチ)を進める必要があります。
- ◆市民が豊かな人生を送ることができるよう、多様化・複雑化する社会的課題への解決に向けた取組を進める必要があります。
- ◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆町田市生涯学習センターのあり方見直し方針に基づき、事業内容、運営形態の見直しを行い、実行計画を策定します。</li> <li>◆新たに地域利用を開始する町田第一中学校の特別教室を活用して、地域活性化につなげるイベント等を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新たに生じる社会的課題への対応を学ぶ講座や、デジタル初心者向け体験講座を開催し、多様化・複雑化する社会的課題への解決に向けた取組を推進します。</li> <li>◆施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施していきます。</li> </ul>
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、2023年2月に「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」を策定しました。</li> <li>◆急激に進むデジタル化に対応するため、「なんでもスマホ相談室」を開催しました。中でも、12回実施した「出張なんでもスマホ相談室」では、地域団体と連携し、地域での学習機会を創出しました。また、新たな社会的課題に対応するため、「スマホ安心安全教室」を開催しました。</li> </ul>	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	-	-	70	70	増	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合(新型コロナワクチン接種による利用を除く)。
		実績	51	58	56			
学習成果を今後、いかせると答えた人の割合	%	目標	-	-	71	86	89	講座実施後に行うアンケートの回答で得られた割合。
		実績	-	-	85		(2026年度)	
市民提案型事業「まちチャレ」実施数	事業	目標	6(3)	6(3)	7(3)	8(4)	8(4)	町田市教育プラン2019-2023、町田市生涯学習推進計画2019-2023における重点事業。( )は地域での実施数。
		実績	6(2)	6(3)	7(1)		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により、ワクチン接種会場として一部施設を優先的に利用したことや、活動を控えた団体もいたことから、施設利用率は56%に留まりました。
- ◆デジタル初心者向け体験講座「なんでもスマホ相談室」等の受講者アンケート結果で、学習成果を今後活かせると答えた人の割合は85%になりました。
- ◆市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」は7事業のうち町田駅周辺以外の地域で実施したのは1事業でしたが、多様な方に向け、「出張なんでもスマホ相談室」など市民ニーズに対応した学習機会を提供することができました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目					勘定科目				
2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A		2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	
人件費	146,054	152,218	156,841	4,623	地方税	0	0	0	
うち時間外勤務手当	4,329	8,991	8,822	△ 169	保険料	0	0	0	
物件費	44,825	41,637	56,771	15,134	国庫支出金	0	0	0	
うち委託料	16,173	19,984	28,489	8,505	都支支出金	7,502	8,892	16,662	
維持補修費	6,778	958	3,209	2,251	分担金及負担金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11,381	4,319	6,997	
補助費等	68,000	57,846	57,833	△ 13	その他	4,528	1,835	2,020	
減価償却費	16,688	18,507	18,109	△ 398	行政収入 小計(a)	23,411	15,046	25,679	
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 274,081	△ 288,914	△ 279,371	
賞与・退職手当引当金繰入額	15,147	32,794	12,287	△ 20,507	金融収支差額(d)	△ 13,881	△ 2,365	△ 1,068	
行政費用 小計(b)	297,492	303,960	305,050	1,090	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 287,962	△ 291,279	△ 280,439	
特別費用(g)	0	3,761	0	△ 3,761	特別収入(f)	0	0	302	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	△ 3,761	302	4,063	当期収支差額(e)+(h)	△ 287,962	△ 295,040	△ 280,137	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	補助費等
決算額の主な内訳	常勤職員 119,936千円 再任用職員 11,018千円 会計年度任用職員 24,456千円 会計年度任用補助職員報酬 1,431千円	町田センタービル管理費負担金 47,190千円 障がい者青年学級担当者謝礼 5,198千円 市民大学講座講師謝礼 1,909千円 さがまちコンソーシアム年会費 1,000千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により人件費が4,623千円増加。	施設の老朽化などにより町田センタービル管理費負担金が431千円増加。新型コロナウイルス感染症の影響で活動を控えていたボランティアスタッフが活動を再開したことなどにより担当者謝礼が334千円増加。
勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 22,384千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 14,360千円 町田第一中学校学習支援事業等業務委託 7,618千円 デジタルデバイス対応促進事業業務委託 2,093千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業費 12,166千円 障がい者施策推進包括補助事業費 2,872千円 家庭教育支援基盤形成事業費 1,095千円 人生100年時代セカンドライフ応援事業費 529千円
主な増減理由	新規事業の実施により町田第一中学校学習支援事業等業務委託が7,618千円増加。施設の休館日数の減少及び光熱水費の単価上昇により生涯学習センター光熱水費が5,698千円増加。	町田第一中学校学習支援事業等業務委託、特別教室等地域利用管理業務委託などの特定財源である都補助金の増加などにより子ども・長寿・居場所包括補助事業費が7,723千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	167,497	13,065	△ 154,432
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	2,188,696	2,170,588	△ 18,108	地方債	154,219	778	△ 153,441
	土地	1,706,823	1,706,823	0	賞与引当金	13,278	12,287	△ 991
	建物(取得価額)	810,237	778,241	△ 31,996	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 328,364	△ 314,476	13,888	固定負債	125,676	116,187	△ 9,489
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	4,667	3,889	△ 778
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	121,009	112,298	△ 8,711
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	負債の部合計	293,173	129,252	△ 163,921
	建設仮勘定	0	0	0	純資産	1,899,768	2,045,581	145,813
	その他の固定資産	4,245	4,245	0	純資産の部合計	1,899,768	2,045,581	145,813
資産の部合計	2,192,941	2,174,833	△ 18,108	負債及び純資産の部合計	2,192,941	2,174,833	△ 18,108	

④貸借対照表の特徴的事項

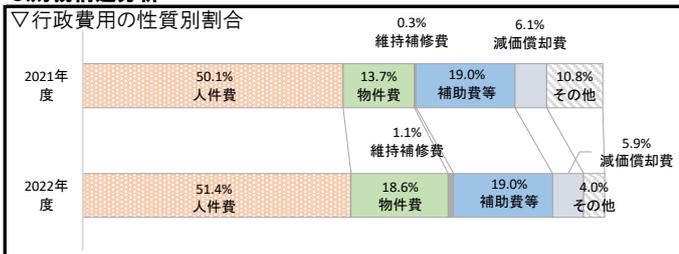
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有持分100万分の254,148)	生涯学習センター 778,241千円	重要物品 1,260千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由	増減なし	陶芸スタジオの所管替えにより31,996千円減少。減価償却により18,108千円減少。	増減なし

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

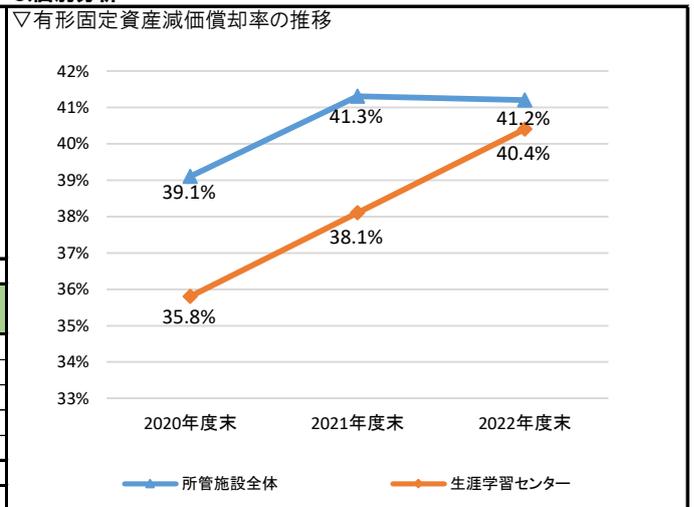
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	25,679	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	297,410	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	154,219
行政サービス活動収支差額(a)	△ 271,731	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 154,219
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 425,950
				一般財源充当調整額	425,950

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
生涯学習センター管理事務	3.7	0.6	0.3	0.1		4.7	5.7
生涯学習支援事業	3.2	0.3	0.3	0.1		3.9	3.6
生涯学習講座事業	6.0	0.1		7.2	0.8	14.1	13.6
施設管理	1.1		0.5	0.5		2.1	0.3
2022年度 歳出目 合計	14.0	1.0	1.1	7.9	0.8	24.8	24.3
2021年度 歳出目 合計	15.1	0.0	1.1	7.8	0.3	24.3	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆ 中心市街地に近い町田第一中学校の特別教室を市民活動の新たな場として団体に貸し出し、活動を支援するとともに、図書室を活用した学習支援を行い(業務委託料7,618千円)、多様な学習ニーズに対応しました。
- ◆ 地域で活動している学生の成果発表や地域との交流を目的とした学生活動報告会「ガクマチEXPO」は、学生の参画を進め、「学生による授業」形式で開催しました。参加学生や連携団体が積極的にSNSによるPRを展開したことで、生涯学習センターTwitterの本事業閲覧数は約1万アクセスを記録しました。

②過年度データとの比較・分析

- ◆ 物件費は、町田第一中学校特別教室の地域利用のために導入した学習支援事業等業務の委託料、デジタル初心者向けに導入したデジタルデバイス対応促進事業業務の委託料などにより2012年度から11,946千円増加し、56,771千円となりました。
- ◆ 都支出金は、町田第一中学校特別教室の地域利用や、デジタルデバイス対策事業等の実施にあたり、東京都の補助制度を積極的に活用したため、2012年度から9,160千円増加し、16,662千円となりました。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆ 「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
- ◆ 市民の学習機会を充実させるため、事業の地域展開(アウトリーチ)を推進するとともに、学習情報を得られやすい環境を整備する必要があります。
- ◆ 市民の主体的な学習活動を支援するため、施設利用の促進に向けた検討が必要です。
- ◆ 施設の老朽化に対応するため、計画的に修繕を実施していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 講座事業の整理と体系化を進めます。</li> <li>◆ 施設の利用促進策として学習スペースの充実などに取り組みます。</li> <li>◆ デジタルデバイス事業は、地域展開の拡充に取り組みます。</li> <li>◆ 施設の老朽化に対応するため、施設の計画的な修繕を進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。</li> <li>◆ 事業のデジタル化を推進するために、これまでの事業の検証と実施方法の検討を行います。</li> </ul>

2022年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	他自治体の取り組み等	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市ありますが、それに加えてスマートフォンによる蔵書点検やより詳細な所在位置情報を案内できるセルフ予約棚の設置を実現する、ICタグ・カラーバーコードシステムを導入しているのは町田市だけです。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関する事 ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事 ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関する事 ◆読書普及を目的とした各種行事に関する事 ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事 ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関する事 ◆町田市立図書館協議会に関する事		

2.2021年度末の総括と2022年度状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
 ◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアを検討する必要があります。◆電子書籍の導入など、あらゆる市民が利用しやすい図書館づくりを目指す必要があります。◆鶴川図書館の新たな運営体制の開始に向けた準備が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆指定管理者が適正な管理運営ができていないか確認するモニタリングを実施し、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。◆鶴川図書館の新たな運営体制の開始に向けた準備を行います。◆電子書籍の導入など、あらゆる市民が利用しやすい図書館づくりを進めます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。		
◎	◆鶴川駅前図書館において指定管理者による管理運営を開始しました。開館日・開館時間の拡大や本の要約を読む「flier」の提供など民間事業者ならではのサービスを導入しました。また、労働条件や会計処理などについてモニタリングを実施しました。◆鶴川図書館再編の方向性などについて説明会を開催し、運営団体設立準備会の立ち上げ支援をしました。◆電子書籍サービスを2022年10月から開始しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)(電子書籍は含まない)
		実績	2,714,271	3,210,351	3,169,888		(2023年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.30	3.30	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除した(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)(電子書籍は含まない)
		実績	2.23	2.62	2.58		(2023年度)	
来館者数	人	目標	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	1,397,115	1,486,517	1,689,005		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆目標値には至らず、2021年度と比較すると貸出点数は横ばい、来館者数は増加しました。◆電子書籍サービスの利用促進のため、中央図書館での特設ブースの設置や、名刺サイズのPRカードを市内のカフェや飲食店に設置する広報活動をしました。◆南町田駅前連絡所の閉所に伴い、2023年2月から南町田グランベリーパーク内のまちライブラリーにて予約本受渡しサービスを開始しました。◆市民意識調査及び市政モニターを実施し、図書館利用者以外のニーズの把握に努めました。また、鶴川駅前図書館への指定管理者制度の導入に伴い、各館の状況確認のため全館で図書館アンケートを実施しました。◆「図書館プランナーになってみちやう?」と題して、中学生・高校生世代の若者に図書館の利用促進策について提案してもらいました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目					勘定科目				
2012年度	2021年度	2022年度	差額		2012年度	2021年度	2022年度	差額	
	A	B	B-A			A	B	B-A	
<b>人件費</b>	<b>730,899</b>	<b>733,553</b>	<b>693,605</b>	<b>△ 39,948</b>	地方税	0	0	0	
うち時間外勤務手当	27,168	12,614	12,756	142	保険料	0	0	0	
<b>物件費</b>	<b>222,558</b>	<b>286,821</b>	<b>423,500</b>	<b>136,679</b>	国庫支出金	0	0	0	
うち委託料	38,606	110,624	203,213	92,589	<b>都支支出金</b>	<b>1,037</b>	<b>1,626</b>	<b>13,519</b>	
<b>維持補修費</b>	<b>25,968</b>	<b>15,116</b>	<b>9,583</b>	<b>△ 5,533</b>	分担金及負担金	0	0	0	
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	11	11	
補助費等	59,579	54,607	55,264	657	その他	12,759	1,553	2,449	
減価償却費	28,504	49,756	48,056	△ 1,700	行政収入 小計(a)	13,796	3,190	15,979	
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,123,841	△ 1,205,256	△ 1,264,236	
賞与・退職手当引当金繰入額	70,129	68,593	50,207	△ 18,386	金融収支差額 (d)	0	0	0	
行政費用 小計 (b)	1,137,637	1,208,446	1,280,215	71,769	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,123,841	△ 1,205,256	△ 1,264,236	
特別費用 (g)	89,850	51,395	35,629	△ 15,766	特別収入 (f)	3,975	1,207	9,322	
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 85,875	△ 50,188	△ 26,307	23,881	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,209,716	△ 1,255,444	△ 1,290,543	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 327,095千円 再任用職員 42,902千円 会計年度業務職員 312,604千円 会計年度補助職員 10,657千円 など	鶴川駅前図書館指定管理委託料 109,451千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 84,542千円 図書館情報システムサービス使用料 42,930千円 中央図書館施設運営補助業務委託料 41,052千円 など
主な増減理由	鶴川駅前図書館への指定管理者制度導入など職員構成の変動等により、人件費が39,948千円の減少。	鶴川駅前図書館指定管理委託料109,451千円の増加や中央図書館の電動式移動棚・制御交換修繕28,880千円の増加、電子書籍サービス費用10,714千円の増加などにより、136,679千円の増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	中央図書館放送設備更新工事 2,266千円 鶴川図書館空調機更新修繕 1,300千円 金森図書館高圧負荷開閉器(PAS)交換修繕 990千円 さるびあ図書館高圧引込ケーブル更新修繕 858千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 12,133千円 市町村総合交付金 1,386千円
主な増減理由	2021年度に比べ、大規模な改修工事がなかったことにより、5,533千円の減少。	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が12,133千円の増加。 市町村総合交付金が1,386千円の増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		53,184	50,207	△ 2,977
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	950,639	933,746	△ 16,893		賞与引当金	53,184	50,207	△ 2,977
	土地	343,044	343,044	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,623,410	1,644,891	21,481	固定負債		375,806	341,285	△ 34,521
	建物減価償却累計額	△ 1,015,815	△ 1,054,189	△ 38,374		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	375,806	341,285	△ 34,521
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		428,990	391,492	△ 37,498
	インフラ資産	0	0	0	純資産		2,803,071	2,823,688	20,617
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	2,281,422	2,281,434	12	純資産の部合計		2,803,071	2,823,688	20,617
資産の部合計	3,232,061	3,215,180	△ 16,881	負債及び純資産の部合計		3,232,061	3,215,180	△ 16,881	

④貸借対照表の特徴的事項

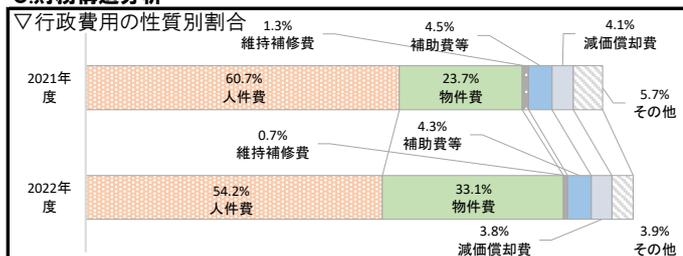
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 130,612千円 木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 2,268,386千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 6,448千円
主な増減理由	増減なし	さるびあ図書館空調設備改修工事により、21,481千円増加。	購入・寄贈 除籍・特別収入・特別費用により図書資産は9,694千円増加。忠生図書館書架等備品は減価償却により、9,682千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

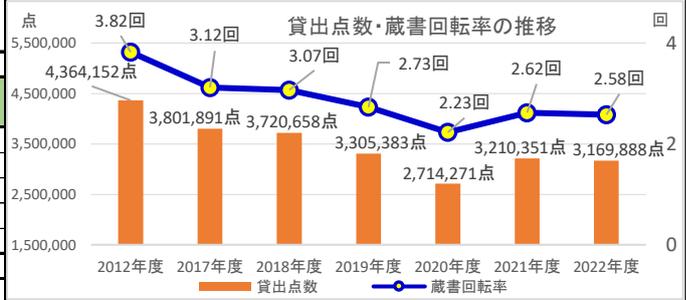
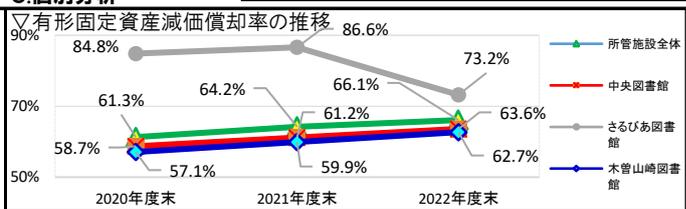
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	15,087	社会資本整備等投資活動収入	10,792	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,260,693	社会資本整備等投資活動支出	35,299	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,245,606	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 24,507	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,270,113
				一般財源充当調整額	1,270,113

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022		2021	
				(業務)	(補助)	合計	合計		
図書館管理事務	7.4	0.5		0.8	0.1	8.8	9.7		
各館庶務事務	10.4	1.9		3.2	0.6	16.1	17.1		
企画運営事務	12.1	1.0	0.1	5.9		19.1	15.8		
資料貸出・閲覧業務	10.5	4.1	0.9	70.6	5.7	91.8	106.8		
利用援助・普及事業	2.6	0.5		9.4		12.5	11.7		
2022年度 歳出目 合計	43.0	8.0	1.0	89.9	6.4	148.3	161.1		
2021年度 歳出目 合計	48.0	7.0	2.0	87.2	16.9	161.1			

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆「英語多読コーナー」を、中央・鶴川駅前・忠生に加えて、さるびあ・金森・堺にも設置しました。また、外国語の絵本・児童書を約700冊購入し、その蔵書数は約6,800冊になりました。◆東京都の補助金を活用して、電子書籍サービスを導入し、3,385点のコンテンツを揃えました。貸出点数の目標を8,500点としていましたが、様々なPR活動を実施した結果、目標を大きく上回り19,180点の貸出がありました。デジタルデバйд解消に向けて、スマートフォンの初心者向け講座を3回開催し56人の参加がありました。またスマートフォン・タブレット端末の操作について個別相談会を開催し20回104人の参加がありました。

②過年度データとの比較・分析

◆貸出点数は2012年度と比べ大幅に(△1,194,264点(△27.4%))減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。◆2012年10月に鶴川駅前図書館、2015年5月に忠生図書館が開館していますが、職員の役割整理や定型業務の委託化等により人件費は減少しています。◆指定管理者制度導入や図書館システム費用を計上することになったため物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入等図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現しています。◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆説明会で示した鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。◆電子書籍サービスは目標を上回る成果をあげたことから、この状況を継続させるため、利用普及に向けて取り組む必要があります。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、一緒に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆鶴川図書館の図書コミュニティ施設への転換に向けた準備を進めます。◆多くの方に電子書籍サービスを利用してもらえるよう、コンテンツの紹介やPR活動に取り組めます。◆若者からの提案による図書館でのイベントの実現に向けて取り組みます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。						
基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則				施設の名称	町田市立中央図書館
	蔵書数(視聴覚資料含む)	2020年度	2021年度	2022年度	建設年月日	1990年4月16日	
	蔵書数(視聴覚資料含む)	578,172点	579,286点	580,278点			
	予約・リクエスト件数	154,333件	171,697件	157,344件			
	貸出者数	266,363人	300,353人	295,924人	有形固定資産減価償却率	2020年度 58.7% 2021年度 61.2% 2022年度 63.6%	

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かし、地域の課題解決に役立つ事業を、他機関・他部署と連携して行っていく必要があります。
- ◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアの養成や育成の検討をすることがあります。
- ◆安心して施設を利用してもらうために、設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応と、長期的な維持管理計画に基づく設備改修をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆地域や図書館で活動するボランティアに向けた講座や研修を企画する等、地域で活動する市民に役立つ事業を行います。◆市立図書館の中心館として、地域の課題に対応するための特集コーナーの設置やイベント・事業などを地域館と連携して行います。◆イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアについて検討します。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、消防設備点検等の結果を活用し、誘導灯改修工事や放送設備更新工事など、施設設備の計画的修繕を行います。	
取組状況	◎ ◆読み聞かせ活動に関わる保護者やボランティアを対象とした絵本の読み聞かせ講座(38人参加)、図書館ボランティア向け講座(63人参加)、利用者に図書館をもっと活用してもらうための講座(70人参加)を開催しました。◆他部署や他機関と連携した特集コーナーを25回設置しました。◆中学生・高校生世代の若者に図書館の利用促進策について提案をしてもらいました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む、電子書籍は含まない)
		実績	750,076	863,199	848,298		(2023年度)	
来館者数	人	目標	612,000	612,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	395,769	460,293	526,063		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆目標値には至らず、2021年度と比較すると来館者数は増加しました。◆英語図書を活用や英語多読の周知のため、英語多読講演会を2回開催し、保護者向け英語絵本の読み聞かせ講演会、ボランティア・職員向け英語絵本読み聞かせ研修会、10代向け英語多読講演会を行い122人の参加がありました。◆デジタルデバイド解消に向けた講習会「はじめてのスマホ体験」を3回開催したほか、スマートフォン・タブレット個別相談会を20回開催し、合計160人の参加がありました。◆中高生向けグループ学習室「わいわいキャレール」の利用は2021年から305人増え、延べ利用者数は273組682人となりました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目					勘定科目					
	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A		2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	
行政費用	人件費	366,022	295,864	331,027	35,163	地方税	0	0	0	0
	物件費	106,889	116,541	162,562	46,021	国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	12,304	52,942	58,705	5,763	都支支出金	1,037	1,626	8,520	6,894
	維持補修費	10,758	14,070	5,026	△ 9,044	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	59,423	54,396	54,984	588	その他	8,542	890	1,605	715
	減価償却費	25,465	34,830	34,830	0	行政収入 小計(a)	9,579	2,516	10,125	7,609
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 597,590	△ 542,232	△ 640,897	△ 98,665
	賞与・退職手当引当金繰入額	38,612	29,047	62,593	33,546	金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	607,169	544,748	651,022	106,274	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 597,590	△ 542,232	△ 640,897	△ 98,665
特別費用(g)	56,775	25,170	17,641	△ 7,529	特別収入(f)	0	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 56,775	△ 25,170	△ 17,641	7,529	当期収支差額(e)+(h)	△ 654,365	△ 567,402	△ 658,538	△ 91,136	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 195,528千円 再任用職員 14,087千円 会計年度任用職員 121,209千円 など	中央図書館施設運営補助業務委託料 41,052千円 電動式移動棚・制御交換修繕 28,880千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 27,307千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が35,163千円増加。	中央図書館の電動式移動棚・制御交換修繕28,880千円の増加や電子書籍サービス費用6,300千円の増加や、電気料金の高騰による光熱水費4,719千円の増加などにより、46,021千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	放送設備更新工事 2,266千円 5階視聴覚資料コーナー照明他LED化修繕 676千円 誘導灯消防設備修繕 528千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 7,134千円 市町村総合交付金 1,386千円
主な増減理由	比較的大規模な改修工事がなかったことにより、9,044千円減少。	電子書籍コンテンツ使用料やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が7,134千円増加。 市町村総合交付金が1,386千円の増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	848,298	767	136	人件費や物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが136円増加しました。
		2021	863,199	631	△ 117	
		2020	750,076	748		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	5,968	109,085	17,807	人件費や物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが17,807円増加しました。
		2021	5,968	91,278	△ 2,774	
		2020	5,968	94,052		

④貸借対照表

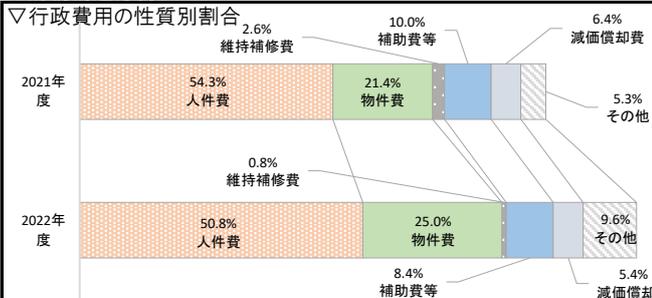
(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	23,144	25,079	1,935
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	809,260	774,429	△ 34,831	地方債	0	0	0
	土地	262,513	262,513	0	賞与引当金	23,144	25,079	1,935
	建物(取得価額)	1,402,817	1,402,817	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 856,070	△ 890,901	△ 34,831	固定負債	179,259	200,784	21,525
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	179,259	200,784	21,525
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	負債の部合計	202,403	225,863	23,460
	建設仮勘定	0	0	0	純資産	1,923,919	1,869,367	△ 54,552
	その他の固定資産	1,317,062	1,320,801	3,739	純資産の部合計	1,923,919	1,869,367	△ 54,552
資産の部合計	2,126,322	2,095,230	△ 31,092	負債及び純資産の部合計	2,126,322	2,095,230	△ 31,092	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,398)	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	図書資産 1,314,201千円 出資金(エルム・スリー管理株)6,600千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、34,831千円減少。	購入19,053千円、寄贈2,327千円、除籍△17,477千円、特別費用△164千円により、図書資産額が3,739千円増加。

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	2022年度		2021年度	
	常勤	再任用(フルタイム)	再任用(短時間)	合計
図書館管理事務	5.7	0.3	0.3	6.4
各館庶務事務	4.3	0.7	1.8	6.8
企画運営事務	8.0	0.3	3.0	11.3
資料貸出・閲覧業務	4.4	1.1	25.6	31.1
利用援助・普及事業	2.4	0.4	3.7	6.5
2022年度 特定事業 合計	24.8	2.8	0.0	27.6
2021年度 特定事業 合計	24.0	3.0	0.0	27.0

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆おはなし会は、2021年度と比べて63回370人増え、延べ98回575人の参加がありました。中高生向けの「一日図書館員」は延べ4回16人参加となりました。「本のおたのしみぶくろ」は2021年度の実施結果を基に個数を増やし、306袋918冊の貸出がありました。◆子ども映画会の参加者数は44人で2021年度並の参加がありました。青少年映画会「Yシネマ」の参加者は15人増え33人でした。通常の映画会の参加者は606人増え、全47回2,146人になりました。◆電子書籍サービスの講座を館内および町田第一中学校の図書室において実施し利用促進を行いました。◆デジタル端末をお持ちでない方にも電子書籍サービスやインターネットを利用しただけのようタブレット端末の貸出を行い、44回の貸出を行いました。

②過年度データとの比較・分析

◆貸出点数は2012年度と比べて大幅に(△677,381点(△44.4%))減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。  
◆人件費は職員の役割整理や定型業務の委託化などにより減少しています。一方で、図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆増加している来館者を読書に繋げていくため、中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを生かし、図書館の活用に関する講座や他機関・他部署と連携した特集コーナーの展開など行っていく必要があります。  
◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。  
◆若者から提案を受けたイベントの実現に向けて、引き続き支援をしていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆市立図書館の中心館として読書普及に向けたイベントや講座を実施します。 ◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRに取組むとともに、学校との連携を検討します。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取組みます。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む中央図書館を安心して利用してもらうために、空調設備点検等の結果を活用し、小中集会室や選定室など空調設備改修工事など、施設設備の計画的修繕を行います。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

事業目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則					
		2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館	
	蔵書数	133,896点	133,109点	132,716点	建設年月日	1972年5月22日	
	予約・リクエスト数	65,491件	85,567件	90,640件			
	貸出者数	70,938人	87,674人	88,446人	有形固定資産減価償却率	2020年度 84.8% 2021年度 86.6% 2022年度 73.2%	

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆移動図書館の出張運行の状況や各巡回場所の利用状況などを分析して、移動図書館を効率的・効果的に運用する必要があります。  
◆学校図書館への支援内容を紹介するなど学校図書館と図書館との連携強化を図る必要があります。また学校の関係者へのニーズ調査をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆移動図書館巡回場所、買い替え時の小型化や予約資料受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。	◆学校の関係者にニーズ調査やヒアリングを行い、また他市の事例を参考に学校図書館と図書館との連携を強化を図ります。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。
		◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。	
取組状況	○ ◆図書館協議会で移動図書館巡回場所見直し基本方針(案)について意見をいただきました。また、「これからの町田市立図書館の移動図書館とサービス拠点」について、これまでの審議をまとめていただきました。◆学校図書館支援貸出について小中学校へのアンケート調査およびヒアリングを実施しました。◆空調設備改修工事や高圧引込ケーブル更新修繕などを実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	392,000	392,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館2台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	266,215	334,077	330,332	(2023年度)		
来館者数	人	目標	228,000	228,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	124,522	131,462	126,860	(2023年度)		

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至らず、2021年度と比較すると横ばいでした。◆移動図書館2台が37か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆移動図書館の出張運行として、芹ヶ谷公園多目的広場(せりがや冒険遊び場前)や幼稚園・保育園などに出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆小・中学校から依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し、26校に2,884冊の貸出を行いました。2021年度と比較して依頼校は2校減少しましたが、貸出冊数は349冊増加しました。◆英語多読コーナーを新設しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	91,046	90,293	93,714	3,421	地方税	0	0	0	0
物件費	20,591	23,996	26,283	2,287	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,630	6,807	6,800	△7	都支支出金	0	0	1,456	1,456
維持補修費	1,097	0	1,115	1,115	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	11	11	11
補助費等	0	12	20	8	その他	595	153	200	47
減価償却費	1,887	2,067	367	△1,700	行政収入 小計(a)	595	164	1,667	1,503
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△116,197	△122,332	△127,213	△4,881
賞与・退職手当引当金繰入額	2,171	6,128	7,381	1,253	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	116,792	122,496	128,880	6,384	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△116,197	△122,332	△127,213	△4,881
特別費用(g)	6,577	7,269	3,612	△3,657	特別収入(f)	8,540	4,515	0	△4,515
特別収支差額(f)-(g)=(h)	1,963	△2,754	△3,612	△858	当期収支差額(e)+(h)	△114,234	△125,086	△130,825	△5,739

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 38,937千円 再任用職員 9,645千円 会計年度任用職員 45,091千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,609千円 光熱水費 4,676千円 清掃業務外委託料 4,639千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が3,421千円増加。	電子書籍サービス費用1,286千円の増加や、電気料金の高騰による光熱水費893千円の増加などにより、2,287千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	高圧引込ケーブル更新修繕 858千円 洗面器給水自動水栓化修繕 219千円 消防設備修繕 31千円 など	子ども・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金 1,456千円
主な増減理由	施設修繕の実施により1,115千円増加。	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が1,456千円の増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	330,332	390	23	人件費や物件費などが増加したことにより、単位当たりのコストが23円増加しました。
		2021	334,077	367	△127	
		2020	266,215	494		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	1,260	102,286	5,067	人件費や物件費などが増加したことにより、単位当たりのコストが5,067円増加しました。
		2021	1,260	97,219	△7,242	
		2020	1,260	104,461		

④貸借対照表

(単位:千円)

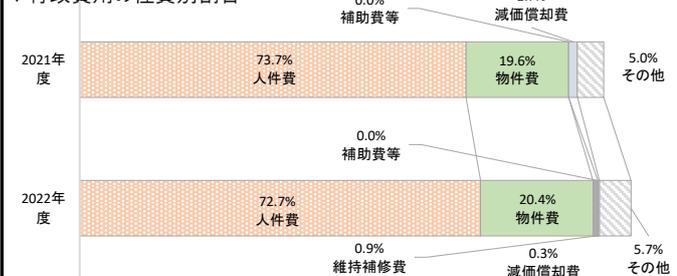
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		6,128	6,051	△ 77
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	95,930	117,044	21,114		賞与引当金	6,128	6,051	△ 77
	土地	80,530	80,530	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	109,131	130,612	21,481	固定負債		42,842	40,860	△ 1,982
	建物減価償却累計額	△ 93,731	△ 94,098	△ 367		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	42,842	40,860	△ 1,982
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		48,970	46,911	△ 2,059
	インフラ資産	0	0	0	純資産		264,310	287,704	23,394
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	217,350	217,571	221	純資産の部合計		264,310	287,704	23,394
資産の部合計	313,280	334,615	21,335	負債及び純資産の部合計		313,280	334,615	21,335	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	さるびあ図書館 130,612千円	図書資産 217,571千円
主な増減理由	増減なし	空調設備改修工事により、21,481千円増加。	購入2,944千円、寄贈888千円、除籍△3,543千円、特別費用△68千円により、図書資産額が221千円増加。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

業務内容	(単位:人)						
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2021 合計	2022 合計
図書館管理事務	0.6					0.6	0.5
各館庶務事務	0.8					0.8	0.9
企画運営事務	0.8	0.1		0.5		1.4	0.8
資料貸出・閲覧業務	2.8	1.8		11.2	1.2	17.0	16.5
利用援助・普及事業		0.1		0.7		0.8	0.8
2022年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	12.4	1.2	20.6	19.5
2021年度 特定事業 合計	5.0	2.0	0.0	10.3	2.2	19.5	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆9月の「星空シロピクニック」、10月の「つながりマルシェin芹ヶ谷公園」や3月の「本でつながるフェスタin鶴川団地～本と人とまち」に移動図書館のイベント運行を行いました。イベント運行3回の合計は延べ数で来場者数183人、貸出者数12人、貸出数31冊でした。また、保育園・幼稚園・学童保育クラブへの出張運行による貸出冊数は、2021年度から807冊増加して2,758冊でした。  
◆学校図書館支援事業として、小中学校合わせて62校の登録校のうち26校から依頼を受け、資料2,884冊を貸出を行いました。2021年度と比較して依頼校は2校減少しましたが、貸出冊数は349冊増加しました。

②過年度データとの比較・分析

◆貸出点数は2012年度と比べ210,502点(38.9%)減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。◆図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。  
◆空調設備改修工事21,481千円の実施により、施設環境の向上を図りました。老朽化した施設の修繕の実施が必要です。  
◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆図書館協議会での審議を踏まえ、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づき効率的・効果的な運行の検討が必要です。  
◆学校図書館支援貸出について、アンケート調査やヒアリングから、貸出依頼時に選書などに時間がかかり、利用しにくいとの回答があったため、学校図書館支援に関するサービスの改善に努める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校図書館支援貸出が利用しやすいように、「テーマ別貸出セット」を構築し、資料の充実を図ります。◆学校図書館支援に関するアンケート調査の結果から、学校図書館支援貸出に関する改善策を検討していきます。 ◆学校の関係者との連携を深め、ニーズ等の調査結果を学校図書館支援貸出サービスの改善に活かします。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。◆さるびあ図書館と中央図書館の集約方法の決定に向けて、地域との意見交換を進めます。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

事業目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立鶴川図書館		
	蔵書数	48,757点	49,906点	44,946点	建設年月日	1972年2月15日		
	予約・リクエスト件数	40,230件	47,729件	43,835件		2020年度	2021年度	2022年度
	貸出者数	44,522人	51,572人	49,237人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
 ◆高齢化が進む大規模団地に所在し、近隣に保育園、小学校、中学校が多い立地環境にあります。来館者数は年々減少していることから鶴川地域に必要な公共空間として鶴川図書館を地域の方々と考えることが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆地域に根ざした図書館づくりの基軸として、鶴川団地商店街のイベント等に引き続き、積極的に取り組んでいきます。 ◆今後の鶴川図書館の再編に向けて、地域住民との意見交換の場を設けていきます。市民協働型運営団体支援業務委託を進め、協働運営主体への支援を目指します。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
取組状況	○	◆10月に開催した鶴川図書館再編に関するトライアルイベント「わくわく発見！鶴川団地の図書館に行ってみよう」では、鶴川団地商店街のイベントと連携して実施しました。 ◆鶴川図書館再編の方向性などについて説明会を開催し、運営団体設立準備会の立ち上げ支援をしました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	211,000	211,000	211,000	211,000	211,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	139,898	162,281	150,897		(2023年度)	
来館者数	人	目標	174,000	174,000	174,000	174,000	174,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	115,801	68,995	69,794		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆目標値には至りませんが、2021年度と比べて来館者数は増加しました。  
 ◆観光まちづくり課による謎解きイベント「まちだ謎解きゲーム」の出題ポイントとして施設の一部を提供することで、来館者の増加につながりました。  
 ◆鶴川図書館再編に関するイベントを3回実施して、延べ約1,200人の参加がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	37,511	42,482	42,856	374	地方税	0	0	0	0
物件費	10,083	12,594	13,561	967	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,652	1,761	1,983	222	都支支出金	0	0	813	813
維持補修費	16	0	1,496	1,496	分担金及負担金	0	0	0	0
行政費用	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	156	163	167	4	その他	277	25	39	14
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	277	25	852	827
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 54,029	△ 60,591	△ 60,884	△ 293
賞与・退職手当引当金繰入額	6,540	5,377	3,656	△ 1,721	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	54,306	60,616	61,736	1,120	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 54,029	△ 60,591	△ 60,884	△ 293
特別費用(g)	2,265	1,740	7,878	6,138	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 2,265	△ 1,740	△ 7,878	△ 6,138	当期収支差額(e)+(h)	△ 56,294	△ 62,331	△ 68,762	△ 6,431

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 21,821千円 会計年度業務職員 20,200千円 会計年度補助職員 812千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 4,481千円 図書館情報システムサービス使用料 2,275千円 清掃業務委託料 822千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が374千円増加。	電子書籍サービス費用718千円の増加などにより、967千円の増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	空調機器更新修繕 1,300千円 換気扇交換修繕 119千円 洗面器給水自動水栓化修繕 77千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 813千円
主な増減理由	空調機器などの緊急修繕により、1,496千円の増加。	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が813千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	150,897	409	35	物件費や維持補修費などが増加したことにより、単位あたりコストが35円増加しました。
		2021	162,281	374	△ 117	
		2020	139,898	491		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	260	237,446	4,308	物件費や維持補修費などが増加したことにより、単位あたりコストが4,308円増加しました。
		2021	260	233,138	△ 31,116	
		2020	260	264,254		

④貸借対照表

(単位:千円)

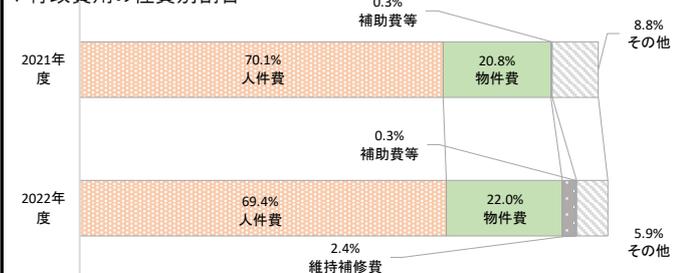
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,257	3,162	△ 95	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	3,257	3,162	△ 95
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	24,052	22,710	△ 1,342
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	24,052	22,710	△ 1,342
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	27,309	25,872	△ 1,437
		土地	0	0	0	純資産	33,362	28,736	△ 4,626
		工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額		0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	60,671	54,608	△ 6,063	純資産の部合計	33,362	28,736	△ 4,626	
	資産の部合計	60,671	54,608	△ 6,063	負債及び純資産の部合計	60,671	54,608	△ 6,063	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 54,608千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入1,216千円、寄贈599千円、除籍△7,859千円、特別費用△19千円により、図書資産額が△6,063千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

業務内容	(単位:人)						
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2022 合計	2021 合計
図書館管理事務	0.2			0.2		0.4	0.3
各館庶務事務	1.2			0.3		1.5	1.5
企画運営事務	0.7			0.3		1.0	0.8
資料貸出・閲覧業務	0.7			4.1	0.5	5.3	5.9
利用援助・普及事業	0.1			0.9		1.0	0.8
2022年度 特定事業 合計	2.9	0.0	0.0	5.8	0.5	9.2	9.3
2021年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	4.8	1.5	9.3	-

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆館内イベントのうち、児童対象の「夏休みイベント にんぎものをさがせつるだんピック」は203人の参加がありました。
- ◆鶴川図書館再編に関するトライアルイベントとして、「わくわく発見！鶴川団地の図書館に行ってみよう(10月)」「鶴川団地の図書館にあつまろう！～みんなでつくる～(1月)」「本でつながるフェスタin鶴川団地～本と人とまち～(3月)」を行い約1,200人の参加がありました。
- ◆UR都市機構や鶴川団地のコミュニティービルダーと共催で「だんちでえほん」を2回(7月・12月)開催し、計37人の参加がありました。

②過年度データとの比較・分析

- ◆貸出点数は2012年度と比べ大幅に(△284,242点(△65.3%))減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展に加え、鶴川駅前図書館が開館したことより減少していると考えられます。
- ◆図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。
- ◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆説明会で示した図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。
- ◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に積極的に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆説明会で示した図書コミュニティ施設への転換に向けて、運営団体設立準備会への支援が必要です。</li> <li>◆地域のコミュニティ形成に協力していくため、鶴川団地商店街のイベント等に積極的に取り組む必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。</li> </ul>

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立金森図書館		
	蔵書数	124,641点	126,581点	129,283点	建設年月日	2000年7月4日		
	予約・リクエスト件数	122,820件	145,282件	145,456件		2020年度	2021年度	2022年度
	貸出者数	136,734人	160,877人	161,709人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
 ◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆様々な年代の方に利用していただけるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していく必要があります。◆建築後21年が経過し、老朽化した施設の維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取組状況	◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。 ◆来館者数の増加にむけて、魅力的な行事の実施を継続しながら、シニア向け事業の推進を図ります。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆老朽化が進む金森図書館を安心して利用してもらうために、施設や設備の修繕を行い、施設の安全管理に努めます。
取組状況	◆環境政策課と連携した特集展示「みんなで考えようごみ問題・環境問題」を約1ヶ月間行い、利用の促進を図りました。◆夏休み児童向けイベント、シニア向け特別おはなし会など、年間14件に及ぶ魅力的な行事を行い、2021年度と比較して来館者数が49,714人の増加となりました。◆老朽化の進んでいた停電事故の保護装置である高圧負荷開閉器(PAS)の交換修繕を実施し、安全管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	715,000	722,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	486,043	584,238	587,110		(2023年度)	
来館者数	人	目標	259,000	260,000	260,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	203,724	179,945	229,659		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数・来館者数は目標値には至りませんが、2021年度と比較すると貸出点数は2,872点の増加、来館者数は49,714人の増加となりました。  
 ◆夏休みイベントとして、5つの分野の本を読む「本で世界を旅しよう！」を実施し、延べ338人の利用者が参加しました。また、お楽しみ形式での本の貸出イベントを2回開催し、221袋の貸出を行いました。◆定期的なおはなし会に加え、シニア向け特別おはなし会などを実施し、2021年度おはなし会と比較して209人増加となる450人が参加しました。◆英語多読コーナーを新設しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2022年度				勘定科目	2022年度			
	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A		2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	69,991	68,411	65,189	△ 3,222	地方税	0	0	0	0
物件費	23,841	31,014	32,040	1,026	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	5,942	7,543	7,447	△ 96	都支出金	0	0	594	594
維持補修費	13,704	120	1,278	1,158	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	7	8	1	その他	691	178	238	60
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	691	178	832	654
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 110,789	△ 105,101	△ 101,520	3,581
賞与・退職手当引当金繰入額	3,944	5,727	3,837	△ 1,890	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	111,480	105,279	102,352	△ 2,927	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 110,789	△ 105,101	△ 101,520	3,581
特別費用(g)	11,192	5,587	2,354	△ 3,233	特別収入(f)	0	37	5,715	5,678
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 11,192	△ 5,550	3,361	8,911	当期収支差額(e)+(h)	△ 121,981	△ 110,651	△ 98,159	12,492

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 14,670千円 再任用職員 8,529千円 会計年度任用職員 41,972千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,821千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 清掃業務委託料 2,998千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が3,222千円減少。	入札による清掃業務委託料154千円減少などにより委託料が96千円減少した一方、電気料金の高騰による光熱水費569千円増加などにより、1,026千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支出金
決算額の主な内訳	高圧負荷開閉器(PAS)交換修繕 990千円 冷水器電磁弁等交換修繕 83千円 洗面器給水自動水栓化修繕 77千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 594千円
主な増減理由	高圧負荷開閉器(PAS)交換修繕などにより1,158千円増加。	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が594千円の増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	587,110	174	△ 6	貸出点数が増加し、人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが6円減少しました。
		2021	584,238	180	△ 47	
		2020	486,043	227		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	1,500	68,235	△ 1,951	人件費などが減少したことにより、単位あたりコストが1,951円減少しました。
		2021	1,500	70,186	△ 3,291	
		2020	1,500	73,477		

④貸借対照表

(単位:千円)

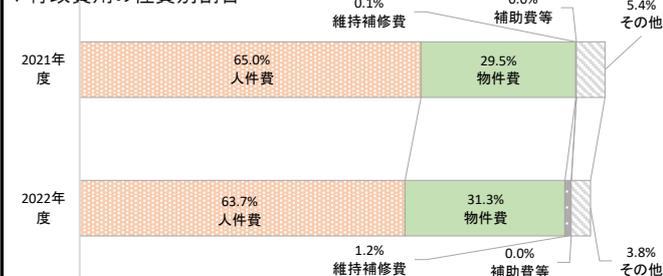
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		4,316	3,659	△ 657	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0		賞与引当金	4,316	3,659	△ 657
		土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債		23,676	16,737	△ 6,939
		建物減価償却累計額	0	0	0		地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	23,676	16,737	△ 6,939
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		27,992	20,396	△ 7,596	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産		145,143	156,038	10,895
		土地	0	0	0					
		工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額		0	0	0						
無形固定資産		0	0	0						
	建設仮勘定	0	0	0						
	<b>その他の固定資産</b>	<b>173,135</b>	<b>176,434</b>	<b>3,299</b>	純資産の部合計		145,143	156,038	10,895	
	資産の部合計	173,135	176,434	3,299	負債及び純資産の部合計		173,135	176,434	3,299	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 176,434千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,261千円、寄贈2,362千円、除籍△2,354千円、特別収入30千円により、図書資産額が3,299千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.2			0.2		0.4	0.9
各館庶務事務	1.2	0.3		0.2		1.7	1.1
企画運営事務	0.2	0.1	0.1	0.5		0.9	0.6
資料貸出・閲覧事務	0.4	0.6	0.9	9.5	1.9	13.3	14.3
利用援助・普及事業				0.7		0.7	0.7
2022年度 特定事業 合計	2.0	1.0	1.0	11.1	1.9	17.0	17.6
2021年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	10.6	3.0	17.6	-

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆2021年度と比較すると貸出点数は2,872点、来館者数は49,714人の増加となりました。新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度の水準まで回復してきています。◆児童向け夏休みイベントとして5つの分野の本(昔話、物語、知識、英語、絵本)を順番に読む「本で世界を旅しよう! マゼラン世界1周500周年記念」を実施し、延べ338人の利用者が参加しました。また、英字新聞で数冊の本を包む「お楽しみ袋」形式での本の貸出イベントを2回開催し、221袋の貸出を行いました。魅力的なイベントで多くの本と出会う機会を創出することができました。◆清掃業務委託について仕様の見直しを行い、2021年度3,152千円から2022年度2,998千円となり、154千円削減となりました。

②過年度データとの比較・分析

◆貸出点数は2012年度と比べ284,632点(32.7%)減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。◆図書館システム費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入などにより利用者の利便性向上を実現させています。◆2022年度維持補修費は2012年度と比較すると12,426千円の減少となりますが、これは2012年度に屋上防水・外壁改修工事13,205千円を行ったことが主な理由です。2000年に建築されているため老朽化が進んでおり、屋上防水や空調設備などの大規模な維持補修修繕を計画的に行う必要があります。◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆多くの方に利用してもらえるように、子ども向けのイベントを続けながら、シニア向けの事業を推進していくことが必要です。◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。</li> <li>◆シニア向け事業をはじめとする魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けた取り組みを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。</li> <li>◆老朽化が進む金森図書館を安心・安全に利用していただくために、施設や設備の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。</li> </ul>

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則						
		2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立忠生図書館		
	蔵書数	98,824点	102,542点	105,195点	建設年月日	2015年2月27日		
	予約・リクエスト件数	58,531点	68,299点	66,950点		2020年度	2021年度	2022年度
	貸出者数	88,852人	103,407人	103,775人	有形固定資産減価償却率	71.6%	82.2%	92.9%

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆2015年5月の開館以後2018年度をピークに来館者数が減少傾向にあり図書館サービスのPRが必要です。
- ◆市民ニーズがありながら新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため「おはなし会」や「講演会」など実施できなかった事業があり、コロナ禍に対応した実施方法の検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止していた「おはなし会」の実施方法を検討して、再開します。 ◆複合施設の利点を生かし、窓口や施設、乳幼児健診などで来館された方に向けて図書館サービスのPRを行います。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
取組状況	○ ◆新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休止していた「おはなし会」を5月から再開しました。 ◆様々な目的で忠生市民センターに来館された方に忠生図書館をPRできるよう、案内表示や掲示物の改善を図りました。 ◆子育て相談センター主催の忠生市民センターを会場とした「出張子育てひろば」に参加し、ミニおはなし会と図書館PRを実施しました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	568,000	568,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	376,325	438,693	438,283		(2023年度)	
来館者数	人	目標	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	148,402	151,719	161,560		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数、来館者数は目標には至りませんでした。2021年度と比較して貸出点数は横ばい、来館者数は9,841人増加しました。◆図書館利用を促進するため児童向けイベントを6回実施し、参加者は2021年度と比較して1,297人増加し2,398人でした。◆児童や大人向けに季節にあったテーマや通年特集の「星座」「旅行」を毎月更新し、年間を通して様々な特集を110回実施し、多くの本と出会う機会を提供することができました。また、環境政策課と共催で「SDGs」の特集や忠生市民センターでの東京都主催のスマートフォン教室に合わせ、「スマホ講座関連」の特集を実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2016年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2016年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	68,519	62,255	61,971	△ 284	地方税	0	0	0	0
物件費	40,325	31,864	33,296	1,432	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	14,875	11,905	12,016	111	都支支出金	0	0	570	570
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	9	7	8	1	その他	140	72	99	27
減価償却費	11,065	9,682	9,682	0	行政収入 小計(a)	140	72	669	597
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 122,392	△ 109,401	△ 107,967	1,434
賞与・退職手当引当金繰入額	2,614	5,665	3,679	△ 1,986	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	122,532	109,473	108,636	△ 837	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 122,392	△ 109,401	△ 107,967	1,434
特別費用(g)	198	1,895	719	△ 1,176	特別収入(f)	44	836	7,204	6,368
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 154	△ 1,059	6,485	7,544	当期収支差額(e)+(h)	△ 122,546	△ 110,460	△ 101,482	8,978

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 14,235千円 再任用職員 4,852千円 会計年度任用職員 42,867千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,821千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,583千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が284千円減少。	電子書籍サービス費用504千円の増加や、電気料金の高騰による光熱水費778千円の増加などにより、1,432千円増加。
勘定科目	都支支出金	
決算額の主な内訳	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 570千円	特になし
主な増減理由	電子書籍コンテンツ使用料やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が570千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	438,283	248	△ 2	貸出点数は前年度と大きな差はなく、人件費が減少した一方、物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが2円減少しました。
		2021	438,693	250	△ 48	
		2020	376,325	298		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	1,266	85,810	△ 662	人件費が減少し物件費が増加したことにより、単位あたりコストが662円減少しました。
		2021	1,266	86,472	△ 2,135	
		2020	1,266	88,607		

④貸借対照表

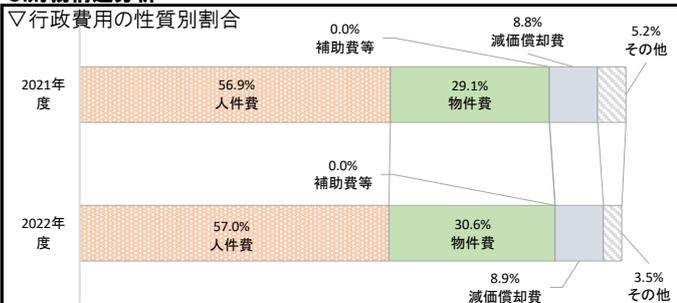
(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,993	3,514	△ 479	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	3,993	3,514	△ 479
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	24,052	15,934	△ 8,118
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	24,052	15,934	△ 8,118
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	28,045	19,448	△ 8,597
		土地	0	0	0	純資産	135,167	137,533	2,366
		工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	163,212	156,981	△ 6,231	純資産の部合計	135,167	137,533	2,366	
	資産の部合計	163,212	156,981	△ 6,231	負債及び純資産の部合計	163,212	156,981	△ 6,231	

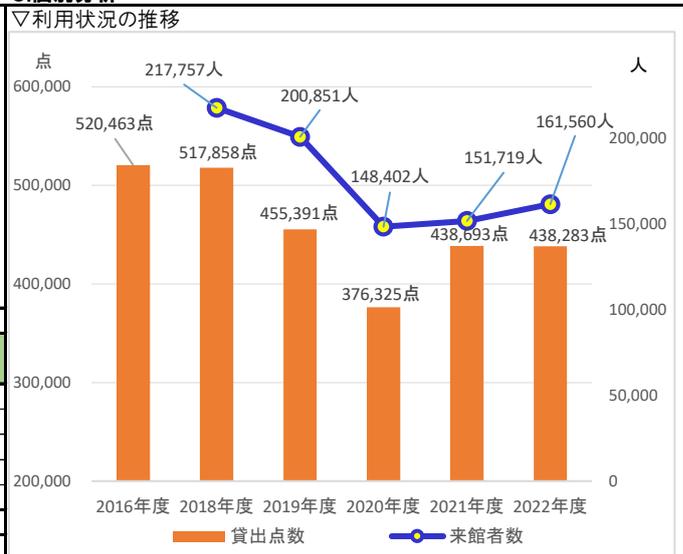
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	内容	特になし	特になし
決算額の主な内訳	図書資産 150,533千円 忠生図書館書架等備品 6,448千円		
主な増減理由	図書資産は、購入・寄贈・除籍・特別収入により、3,451千円増加。書架等備品は減価償却により9,682千円減少。		

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
図書館管理事務	0.3	0.1				0.4	0.4
各館庶務事務	1.8	0.5		0.6		2.9	2.5
企画管理運営事務	0.4	0.2		0.7		1.3	0.7
資料貸出・閲覧業務	0.5	0.2		8.8	1.5	11.0	10.8
利用援助・普及事業				1.6		1.6	0.7
2022年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	11.7	1.5	17.2	15.1
2021年度 特定事業 合計	3.0	1.0	0.0	8.7	2.4	15.1	-

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆他館の英語多読コーナー開始に伴い97冊所蔵替えを行ったことにより所蔵数は2021年度と比較して87冊減少し576冊になりました。一方で、英語多読コーナーを来館者の目に留まりやすい入口付近に変更し、大人の利用促進も図りました。◆図師小学校、忠生小学校、子どもセンター「ただON」での出張おはなし会へ合計244人の参加や、山崎学童クラブ、図師小学校でブックトークを行い合計351人の参加がありました。また、忠生中学校の職場訪問を5人受け入れました。◆忠生地域図書館としてサービスのスキルアップや業務改善に繋げるため木曾山崎図書館との人材交流に取り組みました。

②過年度データとの比較・分析

2015年5月開館のため、年間を通して運営された2016年度のデータと比較・分析しました。  
◆貸出点数は2016年度と比べ82,180点(15.8%)減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。  
◆図書館システム経費の減少により、物件費が減少しています。  
◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆来館者数は2022年度は2021年度と比較して9,841人増加しましたが、2018年度のピークからは下回っている状況です。また、貸出点数はやや減少傾向であるため、さらなる図書館サービスのPRが必要です。  
◆児童・生徒向けの事業の充実とともに、シニア世代の利用を促進する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆町田市立図書館のホームページやツイッターを活用し、イベントや特集などタイムリーな情報を発信し図書館サービスのPRを行います。</li> <li>◆忠生地域にある子育て相談センターや子どもセンター「ただON」等関係部署と連携して、図書館の魅力をアピールしていきます。</li> <li>◆図書館利用者の促進を図るため、シニア世代向けの特集を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。</li> <li>◆開館後7年が経過し、軽微ではあるが施設面で修繕が必要な場面が増えてきています。安心して忠生図書館を利用してもらうため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。</li> </ul>

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

事業目的 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立木曾山崎図書館		
	蔵書数	2020年度	2021年度	2022年度	建設年月日	1976年3月25日		
	蔵書数	52,929点	53,621点	54,631点				
	予約・リクエスト件数	36,634件	42,873件	38,602件		2020年度	2021年度	2022年度
	貸出者数	54,086人	65,813人	62,412人	有形固定資産減価償却率	57.1%	59.9%	62.7%

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用していない市民にも利用していただけるように、魅力的な書架づくりに取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆引き続き、近隣の小学校と連携して、リモートおはなし会などに取り組みます。	◆他館からの資料を取り寄せて魅力的な書架づくりに取り組めます。	◆利用者に快適に利用していただけるように施設を安全・清潔に保ちます。	
◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。		◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。	
取組状況	○	◆七国山小学校のボランティアコーディネーターと連携して、リモートおはなし会を開催するとともに、本町田小学校、七国山小学校及び町田の丘学園での図書館見学の受け入れを行いました。◆他館から本を取り寄せて配置することにより、魅力的な書架づくりに取り組みました。◆利用者に安心して利用いただけるように必要な修繕(非常照明設備修繕、排水詰まり他修繕等)を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	169,457	206,787	192,418		(2023年度)	
来館者数	人	目標	197,000	197,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	141,259	165,898	163,306		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆貸出点数及び来館者数は目標値には至りませんでした。2021年度と比較して横ばいでした。◆毎月館内にて特集コーナーを設置し、図書館の利用促進を図りました(62回)。◆七国山小学校に出張してリモートおはなし会を行い、567人が参加しました。◆本町田小学校、七国山小学校及び町田の丘学園での図書館見学の受け入れをし、218人が参加しました。◆バンザイサンタの折り紙(168個)の掲示、館内謎解きゲームの正解者への工作キットの配布(120個)など各種イベントを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	44,546	40,898	41,020	122	地方税	0	0	0	0
物件費	9,199	12,768	13,542	774	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,605	2,197	2,221	24	都支支出金	0	0	570	570
維持補修費	393	384	329	△ 55	分担金及負担金	0	0	0	0
行政費用	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	5	8	3	その他	340	25	53	28
減価償却費	1,152	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	340	25	623	598
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 57,078	△ 61,386	△ 60,297	1,089
賞与・退職手当引当金繰入額	2,128	4,179	2,844	△ 1,335	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	57,418	61,411	60,920	△ 491	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 57,078	△ 61,386	△ 60,297	1,089
特別費用(g)	6,404	2,869	1,226	△ 1,643	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 6,404	△ 2,869	△ 1,226	1,643	当期収支差額(e)+(h)	△ 63,482	△ 64,255	△ 61,523	2,732

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 15,089千円 再任用職員 4,824千円 会計年度任用職員 21,091千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 清掃業務委託料 1,150千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が122千円増加。	電子書籍サービス費用504千円の増加や、電気料金の高騰による光熱水費236千円の増加などにより、774千円増加。
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	排水詰まり他修繕 67千円 非常照明設備修繕 66千円 など	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 570千円
主な増減理由	軽微な修繕のため、55千円減少。	電子書籍コンテンツ使用料やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が570千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	192,418	317	20	貸出点数が減少したことにより、単位あたりコストが20円増加しました。
		2021	206,787	297	△ 57	
		2020	169,457	354		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	321	189,782	△ 1,530	賞与・退職手当引当金繰入額が減少したことにより、単位あたりコストが1,530円減少しました。
		2021	321	191,312	4,661	
		2020	321	186,651		

④貸借対照表

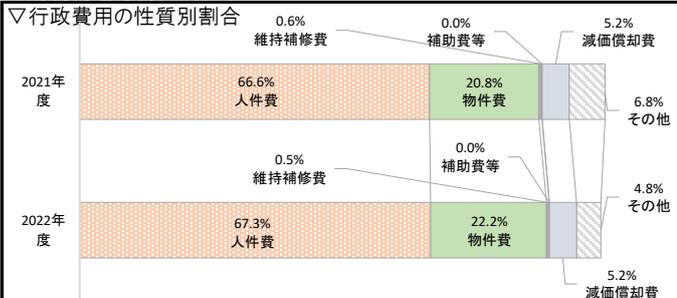
(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,774	2,624	△ 150	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	45,449	42,272	△ 3,177	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	2,774	2,624	△ 150
		建物(取得価額)	111,462	111,462	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 66,013	△ 69,190	△ 3,177	固定負債	17,287	16,180	△ 1,107
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	17,287	16,180	△ 1,107	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	20,061	18,804	△ 1,257
		土地	0	0	0	純資産	97,106	96,364	△ 742
		工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	71,718	72,896	1,178	純資産の部合計	97,106	96,364	△ 742		
資産の部合計	117,167	115,168	△ 1,999	負債及び純資産の部合計	117,167	115,168	△ 1,999		

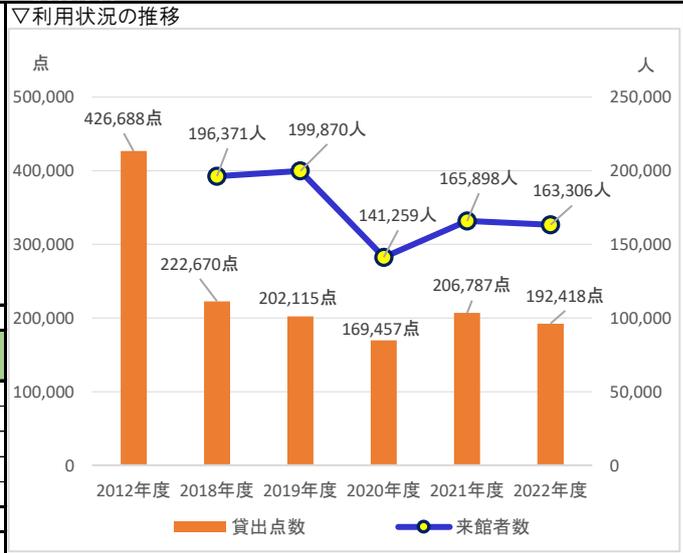
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 72,896千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,177千円減少。	購入1,605千円、寄贈799千円、除籍△1,200千円、特別費用△26千円により、1,178千円増加。	

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員 (単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度(業務)		2022 合計	2021 合計
				2022	2021		
図書館管理事務	0.1	0.1				0.2	0.1
各庶務事務	0.7	0.4		0.2		1.3	0.7
企画運営事務	0.9	0.2		0.3		1.4	1.1
資料貸出・閲覧業務	0.3	0.3		4.1	0.5	5.2	6.6
利用援助・普及事務				1.2		1.2	0.7
2022年度 特定事業 合計	2.0	1.0	0.0	5.8	0.5	9.3	9.2
2021年度 特定事業 合計	2.0	0.0	1.0	5.7	0.5	9.2	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

- ◆玉川学園コミュニティセンターでの予約資料受渡しサービスの利用件数が2021年度8,704冊から2022年度は13,383冊に増加しましたが、業務の見直しを行い2021年度と同じ人員体制で支援業務に対応することができました。
- ◆2021年度と同様、七国山小学校にて全校児童を対象としたリモートおはなし会を実施し、567人が参加しました。また、本町田小学校、七国山小学校及び町田の丘学園での図書館見学の受け入れを行い、218人が参加しました。
- ◆非常照明設備、排水詰まり他修繕等の修繕を行い、施設の維持管理及び利用環境の改善を行いました。

②過年度データとの比較・分析

- ◆貸出点数は2012年度と比べ大幅に(△234,270点(△54.9%))減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。
- ◆図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。
- ◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆これまで図書館を利用したことがない方々及び山崎団地内にお住いの既に図書館を利用しているシニア世代の方々にも引き続きご利用いただけるよう、魅力的な書架づくりに取り組む必要があります。
- ◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども達の本に対する興味を育成し、読書をする習慣を身につけるため、近隣の小学校等と連携し、おはなし会や図書館見学に取り組みます。</li> <li>◆他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりに取り組み、来館者数の増加を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。</li> <li>◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるよう施設の維持管理を行います。</li> </ul>

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業
		事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。						
基本情報	根拠法令等	2020年度	2021年度	2022年度	施設の名称	町田市立堺図書館	
	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則	68,423点	68,417点	69,449点	建設年月日	1983年9月25日	
	蔵書数	29,850件	36,287件	34,253件		2020年度	2021年度
	予約・リクエスト件数	31,907人	40,279人	40,493人	有形固定資産減価償却率	-	-
	貸出者数						

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆移動図書館1巡回あたりの貸出冊数は増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症が拡大している社会情勢のなか、外出自粛の影響があるのか等、今後の貸出冊数の推移を分析していく必要があります◆利用が回復、伸びているので、今後もこのまま来館を伸ばし続けることが必要です。
- ◆隣接する八王子、相模原を含む堺地域にある活動拠点の図書館として、住民に密着した貢献ができる取組が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所、買い替え時の小型化や予約受け渡し場所等、図書館遠隔地サービスの見直し検討を行います。	◆効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	
◆図書資料の閲覧および貸出を促進するため、地域に密着した展示等を行います。		
取組状況	○ ◆図書館協議会で移動図書館巡回場所見直し基本方針(案)について意見をいただきました。また、「これからの町田市立図書館の移動図書館とサービス拠点」について、これまでの審議をまとめていただきました。 ◆保育園や地域で企画した絵画や写真の展示を合計11回行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	257,000	257,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(移動図書館1台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	144,994	184,611	183,503		(2023年度)	
来館者数	人	目標	74,000	74,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	49,028	62,697	61,569		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆貸出点数・来館者数は目標値には至りませんでした。貸出点数、来館者数は、ほぼ横ばいとなっています。◆移動図書館1台が22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆おはなし会(28回参加者279人)、図書館見学(2件140人)、イベント(夏休み自由研究用セット本貸出、相原小学校職場体験リモート質問回答)などを行いました。◆初めて子どもセンターばお分館WAAOにて出張おはなし会(参加者10人)、堺市民センターにて大人向けおはなし会(参加者17人)も実施しました。◆英語多読コーナーを新設しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2012年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	57,139	56,011	54,064	△ 1,947	地方税	0	0	0	0
物件費	6,395	12,988	14,337	1,349	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	0	3,257	3,429	172	都支支出金	0	0	898	898
維持補修費	0	43	338	295	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	9	12	3	その他	312	27	46	19
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	312	27	944	917
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 66,923	△ 78,278	△ 71,860	6,418
賞与・退職手当引当金繰入額	3,701	9,254	4,053	△ 5,201	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	67,235	78,305	72,804	△ 5,501	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 66,923	△ 78,278	△ 71,860	6,418
特別費用(g)	6,567	3,644	1,036	△ 2,608	特別収入(f)	119	0	5,123	5,123
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 6,448	△ 3,644	4,087	7,731	当期収支差額(e)+(h)	△ 73,371	△ 81,922	△ 67,773	14,149

②行政コスト計算書の特長的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 24,020千円 会計年度業務職員 30,019千円 など	ICタグカラーバーコードシステム使用料 5,073千円 堺市民センター物件費 4,058千円 図書館情報システムサービス使用料 2,576千円 など
主な増減理由	職員構成の変動等により、人件費が1,947千円減少。	電子書籍サービス費用793千円の増加や堺市民センター物件費505千円の増加などにより、1,349千円増加。
勘定科目	都支支出金	
決算額の主な内訳	子ども・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金 898千円	
主な増減理由	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が898千円の増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	183,503	397	△ 27	人件費が減少したことにより、単位あたりコストが27円減少しました。
		2021	184,611	424	△ 93	
		2020	144,994	517		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	430	169,312	△ 12,793	人件費が減少したことにより、単位あたりコストが12,793円減少しました
		2021	430	182,105	7,747	
		2020	430	174,358		

④貸借対照表

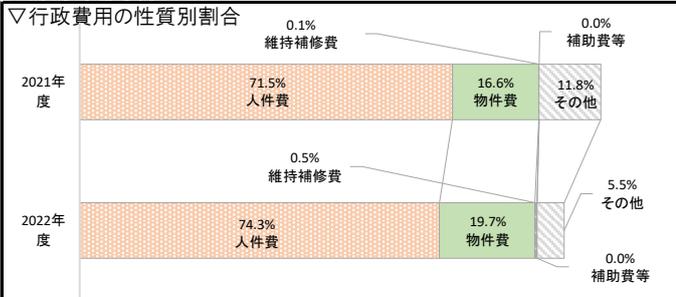
(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	4,427	3,870	△ 557
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	4,427	3,870	△ 557
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	32,319	25,301	△ 7,018
	建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	32,319	25,301	△ 7,018
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	36,746	29,171	△ 7,575
	インフラ資産	0	0	0	純資産	89,408	97,994	8,586
	有形固定資産	0	0	0				
	土地	0	0	0				
工作物(取得価額)	0	0	0					
工作物減価償却累計額	0	0	0					
無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産	126,154	127,165	1,011	純資産の部合計	89,408	97,994	8,586	
資産の部合計	126,154	127,165	1,011	負債及び純資産の部合計	126,154	127,165	1,011	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 127,165千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入1,574千円、寄贈474千円、除籍△1,036千円、特別費用△1千円により、図書資産額が1,011千円増加。		

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	2022年度		2021年度	
				会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	合計	合計
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.4
各館庶務事務	0.8			0.1		0.9	0.9
企画運営事務	0.6			0.5		1.1	0.9
資料貸出・閲覧業務	1.3			7.3		8.6	8.9
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	0.6
2022年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	8.7	0.0	11.7	11.7
2021年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	6.7	1.0	11.7	

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆関連部署との共催事業として、環境政策課との親子で考えるSDGs特集、高齢者福祉課との「D-books」(認知症理解促進、施策周知のブックフェア)特集などを実施しました。また、移動図書館においても高齢者福祉課と連携したD-books特集を行いました。2022年度移動図書館の貸出は、37,468冊でした。  
◆地域で活動している5つの団体及び個人5人と連携し、展示会を11回行いました。◆市外の学校からの図書館見学を受け入れており、自治体の境界を超えた「堺地域」の図書館として利用されています。◆堺市民センターまつりに参加し、雑誌の付録、リサイクル本の配布を行いました。

②過年度データとの比較・分析

◆貸出点数は2012年度と比べて80,570点(30.5%)減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。  
◆図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取組が必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。  
◆図書館協議会での審議を踏まえ、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づき効率的・効果的な運行の検討が必要です。  
◆老朽化に伴い、修繕の必要性があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2023年は堺図書館開館40周年であるため、利用促進を目指したイベントを行います。 ◆「堺地域」にある図書館として、地域に密着した取組を継続します。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆堺市民センターと協力して適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。

2022年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

1.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等	図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則			施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館		
	蔵書数	2020年度	2021年度	2022年度	建設年月日	2012年8月31日		
	蔵書数	108,955点	111,138点	113,398点				
	予約・リクエスト件数	99,026件	110,548件	110,822件		2020年度	2021年度	2022年度
	貸出者数	125,644人	142,583人	149,426人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。
- ◆指定管理者が管理運営しても、サービス水準を維持・向上させるよう、モニタリングに取組む必要があります。
- ◆指定管理者が行う新しいサービス(開館日・開館時間の拡大、本の除菌機やWi-Fi環境の整備等)周知のためのPRが課題です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆指定管理者が適正な管理運営ができていないか確認するモニタリングを実施し、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。		◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。	◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。
◎	◆2022年4月から、指定管理者である久美堂・ヴィアックス共同事業体による管理運営を開始しました。◆指定管理者による運営に移行しても、直営時と変わらないサービス水準を維持しています。◆利用者サービス向上策として、開館日時の拡大や、Wi-Fi環境の提供、本の要約を讀める「flier」の提供などを実施しました。また、開館10周年イベントも開催し、鶴川駅前図書館のオリジナルキャラクター決める総選挙も行いました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	558,000	558,000	558,000	494,928	525,530	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	381,263	436,465	439,047		(2026年度)	
来館者数	人	目標	336,000	336,000	336,000	339,752	370,310	1年間に来館した利用者の延べ人数
		実績	218,610	265,508	350,194		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆来館者数は目標を超え2021年度よりも84,686人増加し、貸出点数は目標に届きませんでした。◆開館日時の拡大により、開館日は38日開館時間は773時間増えました。◆地域のボランティアと連携して英語のおはなし会を開催し76人参加がありました。◆さるびあ亭かーこ氏の紙芝居を6回開催し延べ225人参加がありました。◆オンラインセミナーも2回開催し、「英語絵本読み聞かせ入門」の参加者は親子7組、「自分に合ったビジネス書の選び方」は9人参加がありました。◆11月に実施した利用者アンケートの総合満足度は、「満足」「やや満足」が約97%でした。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2021年度 A	2022年度 B	差額 B-A
人件費	82,582	77,338	3,763	△ 73,575	地方税	0	0	0	0
物件費	26,591	45,056	127,879	82,823	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,728	24,212	110,613	86,401	都支支出金	0	0	97	97
維持補修費	0	500	0	△ 500	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	9	56	47	その他	812	184	169	△ 15
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	812	184	266	82
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 116,349	△ 130,449	△ 131,700	△ 1,251
賞与・退職手当引当金繰入額	7,988	7,730	268	△ 7,462	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	117,161	130,633	131,966	1,333	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 116,349	△ 130,449	△ 131,700	△ 1,251
特別費用(g)	346	3,221	1,164	△ 2,057	特別収入(f)	67	334	29,382	29,048
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 279	△ 2,887	28,218	31,105	当期収支差額(e)+(h)	△ 116,628	△ 133,336	△ 103,482	29,854

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 2,795千円 再任用職員 965千円 など	鶴川駅前図書館指定管理委託料 109,451千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,821千円 図書館情報システムサービス使用料 5,495千円 など
主な増減理由	指定管理者制度導入により、73,575千円の減少。	指定管理委託料109,451千円が増加した一方、総合管理業務委託料が22,528千円減少したことにより、82,823千円の増加。
勘定科目	補助費等	都支支出金
決算額の主な内訳	労働条件モニタリング研修講師謝礼 55千円 子ども読書活動推進計画会議委員謝礼 1千円	子ども・長寿・居場所包括補助事業補助金 97千円
主な増減理由	労働条件モニタリング研修講師謝礼55千円などにより、47千円の増加。	電子書籍サービス費用やデジタル端末利用支援業務委託などの特定財源である都補助金が97千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2022	439,047	301	2	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが2円増加しました。
		2021	436,465	299	△ 45	
		2020	381,263	344		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2022	1,344	98,189	992	人件費は減少しましたが、物件費が増加したことにより、単位あたりコストが992円増加しました。
		2021	1,344	97,197	△ 247	
		2020	1,344	97,444		

④貸借対照表

(単位:千円)

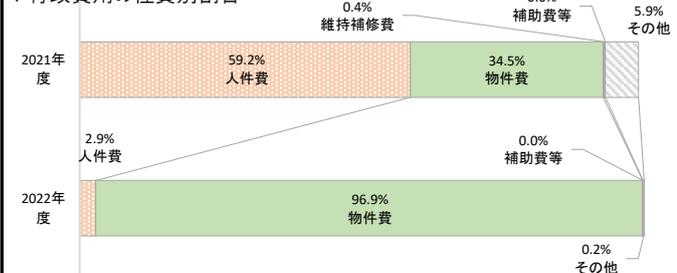
勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	5,146	2,248	△ 2,898	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	5,146	2,248	△ 2,898
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	32,319	2,778	△ 29,541
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	32,319	2,778	△ 29,541	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	37,465	5,026	△ 32,439
		土地	0	0	0	純資産	114,656	149,953	35,297
		工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	152,121	154,979	2,858	純資産の部合計	114,656	149,953	35,297	
	資産の部合計	152,121	154,979	2,858	負債及び純資産の部合計	152,121	154,979	2,858	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 154,979千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,284千円、寄贈738千円、除籍1,149千円、特別費用△15千円により、図書資産額が2,858千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



6.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2022年度		2021年度
						合計	合計	
図書館管理事務						0.0	0.6	
各館庶務事務						0.0	1.1	
企画運営事務	0.3	0.2				0.5	2.2	
資料貸出・閲覧業務						0.0	13.5	
利用援助・普及事業						0.0	0.8	
2022年度 特定事業 合計	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.5	18.2	
2021年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	10.6	2.6	18.2		

7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆指定管理者制度導入により財務構造が変化し、2021年度と比べて人件費が減少し、物件費が増加しました。行政費用は2021年度と比べて横ばいである一方、主な成果である来館者数や貸出点数は良好であり、利用者満足度も「満足」「やや満足」が97%と非常に高いことから、指定管理者制度導入の効果が発揮されています。◆開館10周年イベントでは、地元書店が指定管理者となっていることを活かして、有名絵本作家の講演会や人気児童書キャラクターと写真が撮れるイベント、鶴川駅前図書館のはじまりを描いた紙芝居の口演などを実施し、延べ1,077人の参加がありました。◆個人情報保護研修や認知症サポーター養成講座の受講など管理運営業務が適切に行えるよう、指定管理者が従業員のスキルアップに取り組んでいます。

②過年度データとの比較・分析

2012年10月開館のため、年間を通して運営された2013年度のデータと比較・分析しました。  
◆貸出点数は2013年度と比べ194,436点(30.7%)減少しています。ライフスタイルの多様化や社会のデジタル化の進展により、紙の図書自体の利用が減少していると考えられます。◆指定管理者制度導入により財務構造が変化し、人件費が減少し、物件費が増加しています。また、図書館システムの費用を計上することになったため、物件費が増加しています。セルフ貸出機の導入など図書館システムの更改により利用者の利便性向上を実現させています。  
◆今後も効率的・効果的な運営に向けた取り組みが必要です。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組の展開が必要です。  
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに取り組む必要があります。  
◆鶴川駅前図書館の利用状況の向上に取り組みながらも、町田市立図書館全体の利用状況を向上させるような、民間事業者ならではの新しい図書館サービスを導入する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田市立図書館全体の利用向上に向けて、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。 ◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。	◆「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に掲げた、図書館サービス、資源の再配分、運営体制の確立にかかる取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2022年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

1.組織概要

組織の使命	町田ゆかりの文学者の著作、原稿等の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講演会などを通して市民に発信し、文学に関する調査研究や知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくります。	取 り 自 治 体 等 の	◆町田市民文学館は、多摩26市で唯一の総合文学館として、文学・ことば・文字をテーマにした特色ある事業を実施しています。◆鎌倉文学館では、全国の小中学生から詩の作品を募集した「鎌倉文学館こども文学賞」を実施し、2022年度は639件の応募がありました。◆北九州市立文学館では、小中学生対象の「子どもノンフィクション文学賞」を実施しています。
所管事務	◆文学資料の収集、保存及び展示に関すること ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関すること ◆講演会等の開催に関すること ◆文学に関する広報活動に関すること ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関すること ◆文学資料の寄贈及び寄託に関すること ◆文学館施設・設備の利用及び維持管理に関すること		
基本情報	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則		
	2020年度	2021年度	2022年度
利用料金収入 (単位:千円)	1,194	4,164	3,772
受益者負担比率	0.9%	3.0%	2.6%
	施設の名称		町田市民文学館ことばらんど
	建設年月日		2006年6月1日
	2020年度	2021年度	2022年度
有形固定資産減価償却率	28.1%	30.1%	31.4%

2. 2021年度末の総括と2022年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆デジタル化やアウトリーチ等、ポストコロナ時代に対応した手法を検討しながら、事業を行う必要があります。◆ポストコロナ時代に求められている、地域や人とのつながりを生み出す事業を実施する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では、小学生から高校生まで幅広く応募してもらえるように効果的なPRを行う必要があります。◆若い世代に文学館を知ってもらえるよう、TwitterやInstagram等によるSNSでの情報発信を積極的に行う必要があります。◆開館後16年が経過し、空調設備の改修等大規模な修繕をする必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

	短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
取 組 み 状 況	◆秋の「浅野いにお」展での町田を舞台にした作品の展示をはじめ、多くの市民に関心を持ってもらえる展覧会を実施します。◆玉川大学学生と連携して、中学生向け冊子「町田の文学ガイド」の作成に着手します。◆より多くの応募が得られるように「ことばらんどショートショートコンクール」をPRします。	◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、Twitter、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。
○	◆秋の「浅野いにお」展をはじめ企画展を4回実施し、目標を上回る25,466人の観覧者を獲得することが出来ました。◆2021年度に引き続き、「ことばらんどショートショートコンクール」を実施し、小学生から高校生まで887件の応募がありました。◆SNSでの情報発信を積極的に行い、「浅野いにお」展の記念対談ではYouTubeの視聴回数が過去最高の3,837回を記録しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	16,000	19,000	23,000	25,000	25,000	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	8,530	22,248	25,466		(2023)	
ショートショートコンクール応募件数	件	目標	-	300	1,000	1,000	1,000	2021年度から実施している「ことばらんどショートショートコンクール」の応募件数
		実績	-	939	887		(2023)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆多角的な視点で文学をとらえる展覧会を開催し、SNSを活用して若い世代に向けてPRを行ったことにより、観覧者数が2021年度を上回る25,466人となりました。◆ショートショートコンクール事業では、町田デザイン&建築専門学校と連携して町田駅前商業施設において出張展示を実施したほか、市内の小・中・高校生を対象に出張授業を9回実施しました。◆町内会や商店会と協働で10月には「文学館まつり」を、3月には「文ッ字フリマ」を実施しました。◆玉川大学と連携し、中学生向けに「(仮)町田の文学ガイド」の作成を始めました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2012年度	2021年度	2022年度	差額	勘定科目	2012年度	2021年度	2022年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	67,321	75,558	76,172	614	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,540	1,064	1,503	439	保険料	0	0	0	0
物件費	33,021	34,761	38,825	4,064	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,148	17,718	18,778	1,060	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,138	1,377	6,163	4,786	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	2,429	4,164	3,772	△ 392
補助費等	2,720	2,982	2,487	△ 495	その他	1,001	1,580	2,133	553
減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	3,430	5,744	5,905	161
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 115,808	△ 132,821	△ 139,782	△ 6,961
賞与・退職手当引当金繰入額	1,615	10,464	8,617	△ 1,847	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	119,238	138,565	145,687	7,122	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 115,808	△ 132,821	△ 139,782	△ 6,961
特別費用 (g)	0	1,966	0	△ 1,966	特別収入 (f)	3,473	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	3,473	△ 1,966	0	1,966	当期収支差額 (e)+(h)	△ 112,335	△ 134,787	△ 139,782	△ 4,995

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	使用料及手数料
決算額の主な内訳	光熱水費 11,322千円 作成委託料 5,618千円 施設等管理委託料 4,989千円 など	展覧会観覧料 1,685千円 文学館施設使用料 1,993千円 附属設備使用料 94千円
主な増減理由	電気料金の上上がりにより光熱水費が3,332千円増加。施設等管理委託料が開館日数の増加により1,173千円増加。	会議室利用件数の増加により施設使用料が増加した一方で、展覧会観覧料収入が減少したことにより392千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	文学館エレベーターインバーターユニット他更新工事 3,203千円 文学館バルコニー一部ウッドデッキ改修工事 1,540千円 文学館地下機械室主冷温水ポンプ交換修繕 821千円など	受託販売収入 1,835千円 光熱水費使用料 136千円 複写機等使用料 112千円など
主な増減理由	施設老朽化に伴う更新工事等が生じたことにより4,786千円増加。	展覧会における受託販売収入の増加等により553千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2022	62,089	2,346	△ 428	来館者数が新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の状態にほぼ回復したことにより、来館者1人あたりのコストは428円(15%)減少し、2,346円となりました。
		2021	49,945	2,774	△ 1,534	
		2020	30,364	4,308	1,968	
開館日数1日あたりコスト	日	2022	299	487,247	△ 29,787	開館日数が新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の状態に回復したことにより開館日数1日あたりのコストは29,787円(6%)減少し、487,247円となりました。
		2021	268	517,034	△ 23,437	
		2020	242	540,471	35,830	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度末 A	2022年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	6,157	6,025	△ 132	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	690,715	691,481	766	地方債	0	0	0
		土地	220,902	220,902	0	賞与引当金	6,157	6,025	△ 132
		建物(取得価額)	671,161	685,351	14,190	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 201,348	△ 214,772	△ 13,424	固定負債	51,914	50,708	△ 1,206
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0	
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	51,914	50,708	△ 1,206	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	負債の部合計	58,071	56,733	△ 1,338
		土地	0	0	0	純資産	632,644	634,748	2,104
		工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計	632,644	634,748	2,104	
	資産の部合計	690,715	691,481	766	負債及び純資産の部合計	690,715	691,481	766	

⑤貸借対照表の特徴的事項

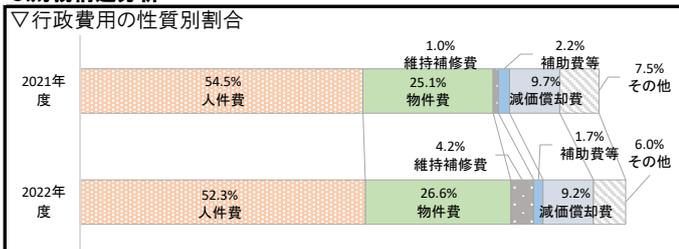
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	町田市民文学館ことばらんど 685,351千円	特になし
主な増減理由	増減なし	空調設備の更新工事により建物取得価額が14,190千円増加。 減価償却により13,424千円減少。	

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	5,905	社会資本整備等投資活動収入	8,604	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	133,601	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 127,696	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	8,604	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 119,092
				一般財源充当調整額	119,092

5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度		2022 合計	2021 合計
				(業務)	(補助)		
管理事務	2.9			0.3	0.5	3.7	3.5
管理事務(施設等貸出)	0.1					0.1	0.1
展示事業	2.1			1.8	1.2	5.1	4.5
学習事業	0.4			1.0	0.5	1.9	1.8
資料収集事業	0.5			2.9	0.7	4.1	4.1
2022年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	6.0	2.9	14.9	14.0
2021年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	5.7	2.3	14.0	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報と非財務情報(取り組み・成果・人員等)の分析

◆光熱水費や維持補修費など施設の維持・開館にかかる費用の上昇により行政費用が2021年度と比較して7,122千円増加しました。◆しかし、観覧者数は企画内容やPR方法の工夫により2021年度と比較して3,218人増加しています。また、行政収入も2021年度と比較して161千円増加しています。◆今後も施設の維持・開館にかかる費用は増加することが予想されますが、質の高い展覧会の開催と、効果的なPRにより来館者や収入の増加を図っていきます。

②過年度データとの比較・分析

◆展覧会における観覧料収入や受託販売収入が増加したことにより行政収入が10年間で2,475千円増加しています。◆開館後17年が経過し施設の老朽化が進んでおり、維持補修費が2012年度と比較して5,025千円増加しています。今後も老朽化の進行に伴い、修繕を要する箇所は増加してくることが予想されますが、施設を安全・快適にご利用してもらうために、内容を精査しつつ適切な修繕を実施します。緊急かつ小規模な修繕はその都度実施していますが、規模が大きな修繕は、関係部署と連携し計画的に実施していく必要があります。

③2022年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆幅広い層の方に文学館を利用してもらうために、積極的に地域や人とのつながりを作り出し、事業を展開していく必要があります。◆社会の変化を捉え、デジタル化やアウトリーチ等、市民のニーズに合った魅力的な事業を行う必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では、小学生から高校生まで幅広く応募してもらえるように、効果的なPRを行う必要があります。◆若い世代に文学館を知ってもらえるよう、TwitterやInstagramといったSNSでの情報発信を積極的に行う必要があります。◆開館後17年が経過し、空調設備の改修等の修繕をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆様々な団体などと連携し、展示室で見ただけではない魅力的な展覧会を実施します。◆学生と連携して作成する「(仮)町田の文学ガイド」を使用して出張授業を行います。◆より多くの応募が得られるように学校と連携しながら「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。	◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、Twitter、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。◆関係部署と連携し、中規模修繕工事の実施を検討します。

